

令和元年度ウチナージュニアスタディー事業報告書

Uchina Junior Study 2019 Report



2019 Uchina Junior Study



1.概要

(1)ウチナージュニアスタディー事業概要	1
(2)総括・成果	2
(3)組織運営図	3
(4)行程表	4
(5)参加者名簿	5
(6)グループ表	7

2.事業内容

(1)事前学習	8
(2)お迎え	14
(3)学習プログラム	16
(4)エイサー講習	41
(5)アフタープログラム	42
(6)見送り	44
(7)事後学習	46
(8)事後報告会	48
(9)おきなわ国際協力・交流フェスティバル2019	51
(10)事業後の活動	52

3.参加者感想

(1)県内参加者・県内青年リーダー	53
(2)海外参加者・海外青年リーダー	70

4.参考資料・その他

(1)メディア関連	86
(2)制作物	88
(3)改善点	91
(4)過去の受入実績	92

●事業目的

世界の沖縄県系人子弟と沖縄県内の同世代の学生が生活を共にしながら沖縄の歴史や文化、自然等を学ぶことで、強い絆を構築するとともに、県系人子弟についてはルーツである沖縄への理解を深め、県内学生については国際的な視野を広げることで世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。

●事業内容

(1) 事業実施

事前学習①：令和元年6月29日(土) 9:00~17:00 (県内参加者・県内青年リーダーのみ)

事前学習②：令和元年7月13日(土) 9:00~16:00 (県内参加者・県内青年リーダーのみ)

学習プログラム：令和元年7月28日(日) ~ 8月3日(土)

アフタープログラム：令和元年8月6日(火)

事後学習：令和元年9月7日(土)

事後報告会：令和元年10月5日(土)

(2) 参加者 33名

■海外参加者 13~19歳までの海外県系人15名

■県内参加者 沖縄県内の中学・高校生16名

■青年リーダー 沖縄県内 / 海外県系人2名

①海外・国別内訳【9カ国】

アメリカ合衆国 4名・カナダ 1名・オーストラリア 1名・ニューカレドニア 1名・
ブラジル連邦共和国 2名・メキシコ合衆国 1名・ボリビア多民族国 2名・
ペルー共和国 2名・アルゼンチン共和国 2名

②海外・世代別内訳

海外参加者 2世 = 5名 3世 = 9名 4世 = 2名

(3) ツアー同行スタッフ

■沖縄県職員 1名・国際交流員 1名(ペルー) 計2名

■担当スタッフ 5名・通訳 3名(英語・スペイン語・ポルトガル語 各1名) 計7名

■その他 エイサー講師 1名・看護師 1名・ボランティア 22名

(4) 学習プログラム

①自然学習

沖縄の自然や動植物に触れるアクティビティーにより、自然の大切さを学ぶ。

②歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を訪れ、沖縄の歴史を学ぶ。

③文化学習

沖縄の歴史から生まれた工芸・芸能等の文化を知り、体験する。

④平和学習

沖縄戦の概要を学び、平和について考える。

⑤社会学習

沖縄での生活を経験し、沖縄の「今」を考える。

⑥移民・移住学習

沖縄県の移民・移住の歴史や世界のウチナーンチュ大会、世界のウチナーンチュの日について学び、ウチナーンチュとしてのルーツを再確認するとともに、次世代のウチナーネットワークの担い手としての自覚を持つ。

今年度は、青年リーダーの役割を増やし、参加者をまとめるだけではなく、ワークショップなどを青年リーダーが企画・運営する機会を作った。彼らがワークショップの進行・企画を行うことで、参加者同士のコミュニケーションが活発になり、プログラムに取り組む姿勢に好影響を与えた。

沖縄NGOセンターとも協力し、事前学習、実施プログラム、アフタープログラム、事後学習での移民・移住学習を通して、ウチナーンチュの移民の歴史、ウチナーネットワークなどについて学び、またグループの目標や目的を立てることで、参加者同士の団結力にも繋がるようなプログラムが実施できた。

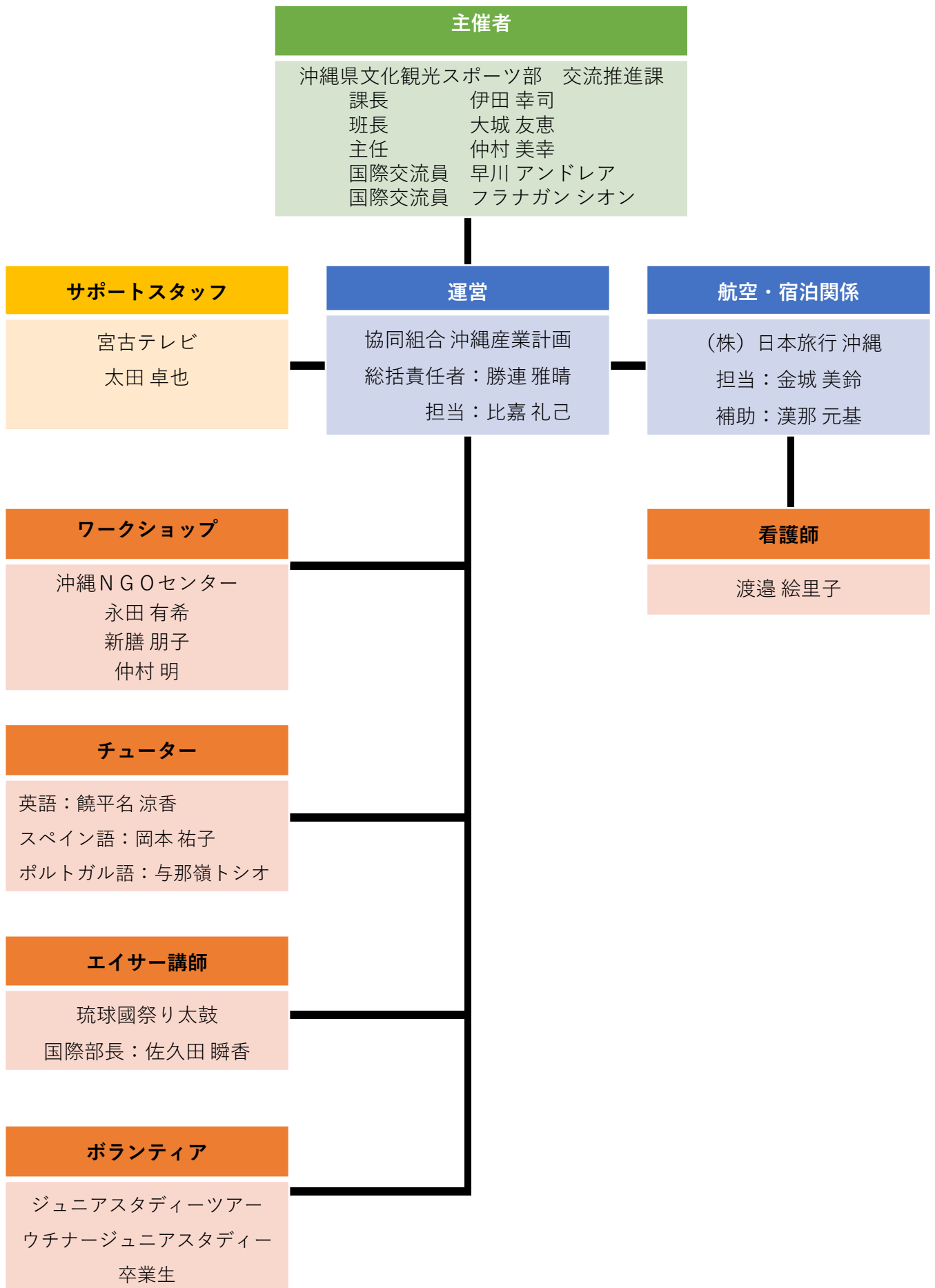
事後学習では、プログラムから1ヵ月が経ち、県内参加者たちがアフタープログラムで作成した行動宣言を実践できているかを確認できた。

事後報告会は、関係者を招待し、県内参加者がプログラムでの経験や海外参加者との交流を通して学んだことや行動宣言を発表したり、クロストークを行い、県内参加者の個人個人の成長を確認することができた。また、プログラム・アフタープログラムで作成した制作物も会場で展示し、関係者に事業のことをより深く知ってもらうことができた。

今年度は、参加者に「ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業」や「海邦養秀ネットワーク構築事業」等の沖縄県が実施している他の国際交流事業の説明を実施することにより、今後の国際交流事業への参加に対する意欲が高まったと考える。

以下、参加者のコメントを一部抜粋

- この一週間で得れたものはとても大きいものだった。
(県内参加者)
- 充実したプログラムに参加することができて嬉しかった。
(県内参加者)
- 楽しただけでなく、しっかり沖縄のことについて学んだり、考えをシェアして深めることができた。
(県内参加者)
- このようなプログラムに参加でき、とても素晴らしい経験でした。絶対に忘れません。
(海外参加者)
- このウチナージュニアスタディは人生をかえる経験でした。一生涯の友達を作ることができ、愛する沖縄についてたくさん学びました。
(海外参加者)
- 近いうちにリーダーとして戻ってきたいと思っています。
(海外参加者)
- このプログラムのおかげで私のルーツに近づいていると感じました。世界中の人々と共有したいと思っています。
(海外参加者)



参加者名簿(県内参加者)

	氏名	年齢	性別	学校名	学年
1	城間 万采	14	女	那覇市立神原中学校	3
	Maya Shiroma				
2	木村 美月	14	女	那覇市立鏡原中学校	3
	Mizuki Kimura				
3	高良 ひなつ	13	女	沖縄尚学高等学校附属中学校	2
	Hinatsu Takara				
4	宮里 京汰	14	男	石垣市立大浜中学校	3
	Keita Miyazato				
5	金城 陽汐	16	女	沖縄県立向陽高等学校	2
	Hina Kinjo				
6	舛田 琉陽	17	男	沖縄県立真和志高等学校	3
	Ryui Masuda				
7	前田 美海	16	女	沖縄県立那覇国際高等学校	2
	Miu Maeda				
8	具志堅 光	16	女	沖縄県立那覇国際高等学校	2
	Hikari Gushiken				
9	高良 成美	17	女	沖縄尚学高等学校	3
	Narimi Takara				
10	比嘉 柁太郎	17	男	沖縄県立北谷高等学校	3
	Shutaro Higa				
11	喜納 日向	15	女	沖縄県立中部農林高等学校	1
	Hinata Kina				
12	雨瀬 ひかる	17	女	沖縄県立具志川商業高等学校	3
	Hikaru Amase				
13	永山 笑妃	15	女	沖縄県立具志川高等学校	1
	Niina Nagayama				
14	松根 乙希	17	女	沖縄県立具志川高等学校	3
	Otono Matsune				
15	高橋 香穂	16	女	昭和薬科大学附属高等学校	2
	Kaho Takahashi				
16	高原 小夏	16	女	昭和薬科大学附属高等学校	2
	Konatsu Takahara				
17	阿武 真帆	20	女	沖縄国際大学	3
	Maho Anno				

参加者名簿(海外参加者)

	氏名	年齢	性別	国名	世代
1	ロビンソン れいみ ジェシカ	15	女	アメリカ合衆国	2
	Reimi Jessica Robinson				
2	マシューズ 恵美子 メーガン	18	女	アメリカ合衆国	2
	Megan Emiko Matthews				
3	安次富 ステファニー 美代	17	女	アメリカ合衆国	2
	Stephanie Miyo Ajifu				
4	ヴァネッサ 芽生 ホーメン	16	女	アメリカ合衆国	2
	Vanessa Mei Homman				
5	レイファイヴ カーナー 本英 フランシス	14	男	カナダ	3
	Connor Honei Francis Lefave				
6	ラマルファ 真由美 ベレン	18	女	アルゼンチン共和国	3
	Mayumi Belen Lamalfa				
7	宮里 明理	18	女	アルゼンチン共和国	3
	Akari Miyasato				
8	与那嶺 改原 ニコラス ショウゴ	16	男	ブラジル連邦共和国	3
	Nicolas Shogo Yonamine Kaihara				
9	天願 ルアナ	18	女	ブラジル連邦共和国	4
	Luana Tengan				
10	玉寄 宮城 ダン	19	男	ペルー共和国	3
	Dan Tamayoshi Miyagui				
11	伊芸 ゲーラ 楓 ミラグロス	15	女	ペルー共和国	3
	Kaede Milagros Igue Guerra				
12	宮城 幸子	17	女	ボリビア多民族国	2
	Sachiko Miyagi				
13	バルガス 前田 サライ 正美	19	女	メキシコ合衆国	3
	Sarai Masami Vargas Maeda				
14	ホーキンス 海	14	男	オーストラリア	3
	Kai Hawkins				
15	エミリー トーセイ 宮里	17	女	フランス (ニューカレドニア)	4
	Emilie Germaine Jeannine Thosei Miyasato				
16	山城 太一	20	男	ボリビア多民族国	3
	Taichi Yamashiro				

グループ表

★グループリーダー ◆青年リーダー

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1	★比嘉 柊太郎 (17)	★舛田 琉陽 (17)	★高良 成美 (17)
	Shutaro Higa	Ryui Masuda	Narimi Takara
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA
2	金城 陽汐 (16)	具志堅 光 (16)	高原 小夏 (16)
	Hina Kinjo	Hikari Gushiken	Konatsu Takahara
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA
3	高良 ひなつ (13)	城間 万采 (14)	木村 美月 (14)
	Hinatsu Takara	Maya Shiroma	Mizuki Kimura
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA
4	マッシュズ 恵美子 メーガン(17)	安次富 ステファニー 美代(17)	ロビンソン れいみ ジェシカ(15)
	Megan Emiko Matthews	Stephanie Miyo Ajifu	Reimi Jessica Robinson
	アメリカ	アメリカ	アメリカ
5	与那嶺 改原 ニコラス ショウゴ(16)	レイファイヴ カーナー 本英 フランシス(14)	玉寄 宮城 ダン(19)
	Nicolas Shogo Yonamine Kaihara	Connor Honei Francis Lefave	Dan Tamayoshi Miyagui
	ブラジル	カナダ	ペルー
6	ラマルファ 真由美 ベレン(18)	伊芸 ゲーラ 楓 ミラグロス(15)	天願 ルアナ(18)
	Mayumi Belen Lamalfa	Kaede Milagros Igue Guerra	Luana Tengan
	アルゼンチン	ペルー	ブラジル
7		宮城 幸子(17)	◆阿武 真帆 (20)
		Sachiko Miyagi	Maho Anno
		ポリビア	沖縄-OKINAWA
	Dグループ	Eグループ	
1	★雨瀬 ひかる (17)	★松根 乙希 (17)	
	Hikaru Amase	Otono Matsune	
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	
2	高橋 香穂 (16)	前田 美海 (16)	
	Kaho Takahashi	Miu Maeda	
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	
3	永山 笑妃 (15)	喜納 日向 (15)	
	Niina Nagayama	Hinata Kina	
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	
4	ヴァネッサ 芽生 ホーメン(16)	宮里 京汰 (14)	
	Vanessa Mei Homman	Keita Miyazato	
	アメリカ	沖縄-OKINAWA	
5	宮里 明理(18)	ホーキンス 海(14)	
	Akari Miyasato	Kai Hawkins	
	アルゼンチン	オーストラリア	
6	エミリー トーセイ 宮里(17)	バルガス 前田 サライ 正美(19)	
	Emilie Germaine Jeannine Thosei Miyasato	Sarai Masami Vargas Maeda	
	フランス ニューカレドニア	メキシコ	
7		◆山城 太一	
		Taichi Yamashiro	
		ポリビア	

男女別内訳

	海外参加者	国内参加者
男	5 (青年リーダー1名含む)	3
女	11	14 (青年リーダー1名含む)
	16	17

言語別内訳

	英語	スペイン語	ポルトガル語
	7	7	2

事前学習①スケジュール

■【事前学習①】 6月29日（土）

実施内容：●オリエンテーション ●沖縄NGOセンターによる移民・移住学習

09：00 集合・出席確認

第一部(県内参加者・県内参加者の保護者・海外参加者ホストファミリー)

09：05 オリエンテーション

- ①主催者挨拶
- ②事業概要説明
- ③スタッフ紹介
- ④世界のウチナーンチュの日制定記念祭ダイジェスト版の映像上映
- ⑤県のウチナーネットワーク施策の説明
- ⑥事業プログラム説明
- ⑦参加者心得・注意事項説明
- ⑧保険の説明
- ⑨質疑応答

第二部(県内参加者のみ)

<進行：沖縄NGOセンター>

10：30 ①自己紹介・活動紹介
②アイスブレイキング
③共通点さがし

12：00 昼食

<進行：沖縄NGOセンター>

13：00 移民・移住学習
①動機・目的の共有
②移民クイズ
③フォトランゲージ～移民の過去から現在まで～
④紙芝居を作ってみよう～5000kmの海を越えたぶた物語～
⑤ふりかえり

16：00 宿題の説明
①ファミリーストーリーについて
②ウェルカムパーティー余興について
③市町村紹介・沖縄紹介プレゼンテーションについて

17：00 事前学習終了

日時：6月29日（土） 09：00～17：00

場所：なは市民活動支援センター

オリエンテーション 9：00～10：30

●目的

県内参加者に加え、県内参加者の保護者・海外参加者ホストファミリーを招き、ウチナージュニアスタディーの趣旨や事業説明・注意事項の説明を行い、理解してもらう。

●実施内容

- ①主催者挨拶（沖縄県交流推進課課長 伊田幸司）
- ②事業概要説明
- ③スタッフ紹介
- ④ビデオ上映（世界のウチナーンチュの日制定記念祭ダイジェスト版）
- ⑤沖縄県のウチナーネットワーク施策の説明
- ⑥事業プログラム説明・参加者心得説明・注意事項説明
- ⑦保険の説明・フライトスケジュール説明
- ⑧質疑応答

●結果

県内参加者の保護者・ホストファミリーを招き、事業説明・注意事項の説明を行なうことで直接やりとりができ、不安を軽減することができた。また信頼感が生まれ、事業への協力をより得ることができた。

ワークショップ 10：30～16：00

講師：沖縄N G Oセンター 新膳朋子・金城さつき

●目的

沖縄N G Oセンターが講師となり、沖縄の移民についてワークショップを行い、移民の写真や体験記などを通して過去から現在までの日系社会や生活の様子などを知る。

●実施内容

- ①アイスブレイキング
- ②共通点さがし
- ③参加した動機・目的の共有
- ④移民クイズ
- ⑤フォトランゲージ
- ⑥紙芝居を作ってみよう～5000kmの海を越えたぶた物語～
- ⑦ふりかえり
- ⑧次回の事前学習の宿題説明（ファミリーストーリー）

●結果

アイスブレイキングや共通点さがしを行ったことで参加者同士の緊張がほぐれ、仲を深めることができた。

県内参加者は本事業への参加目的・目標を再認識し、本プログラムにむけて全員の意識を高めることができた。

グループでフォトランゲージの写真を読み取って話し合いしたり、紙芝居を実際に作成することによって沖縄の移民のいろいろな気づきや発見ができた。

●参加者の感想

ー今後、自分でも世界のウチナーンチュの移民史について、さらに学びを深めたいと思った。

ー移民の歴史や時代の流れを広く知ることができてよかった。

宿題の説明 16:00～17:00

進行：協同組合 沖縄産業計画 比嘉 礼己

●目的

学習プログラムで県内参加者が作成・発表するウェルカムパーティーの余興や沖縄県・市町村紹介について、説明し、県内参加者全員で内容を考える。

●実施内容

- ①ウェルカムパーティーの余興内容説明
- ②沖縄県紹介・市町村紹介の内容説明
- ③ウェルカムパーティーの余興・沖縄県紹介・市町村紹介の担当決めと内容決め

●結果

参加者同士が話し合い、個人個人の特技や趣味などを生かし、ウェルカムパーティーの余興内容が完成した。

沖縄県紹介・市町村紹介は、各参加者の住んでいる市町村を紹介することと、学習プログラムで行く場所を紹介することが決まった。



事前学習②スケジュール

■【事前学習②】 7月13日（土）

**実施内容：●沖縄県によるワークショップ ●交流プログラム
●沖縄NGOセンターによる移民・移住学習**

09：00 集合・出席確認

第一部

<進行：卒業生ボランティアスタッフ>

09：10 交流プログラム

- ①ゲーム：人間知恵の輪・じゃんけん列車・新聞乗りゲーム
- ②ダンス：マカレナ・5!6!7!8!・Ai Se Eu Te Pego

11：00 ウェルカムパーティーの余興練習

12：00 昼食

第二部

<進行：沖縄NGOセンター>

13：00 移民・移住学習

- ①アイスブレイキング
- ②前回の事前学習のふりかえり
- ③ファミリーストーリー発表
- ④体験記
- ⑤「ガンバッテヤンド」リスニング
- ⑥「ガンバッテヤンド」ミニドラマ作成・発表

16：00 ウェルカムパーティーの余興練習

17：00 事前学習終了

日時：7月13日（土） 09：00～17：00

場所：沖縄県立武道館

交流プログラム 09：10～11：00

進行：卒業生ボランティア

●目的

ジュニアスタディーツアー・ウチナージュニアスタディで恒例のダンスの練習やゲームを覚えて、県内参加者がホスト役として海外参加者を迎えるための準備を行なう。またさらに仲を深める。

●実施内容

①ゲーム：人間知恵の輪・じゃんけん列車・新聞乗りゲーム

②ダンス：マカレナ・5!6!7!8!・Ai Se Eu Te Pego

●結果

交流プログラムを行ったことで参加者の緊張もほぐれ距離が縮まった。ダンスを覚え、海外参加者を迎える準備ができた。



ウェルカムパーティーの余興練習 11：00～12：00・16：00～17：00

●目的

学習プログラム1日目のウェルカムパーティーで披露する余興の練習をする。

●実施内容

①各チームに分かれ、余興の練習（午前の部）

②県内参加者全員で踊るダイナミック琉球の振り付け練習・立ち位置の確認

●結果

海外参加者を迎える準備ができた。ウェルカムパーティーの余興の準備も順調に進み、本番に向けて各自自主練を行い、調整をする。



沖縄NGOセンターによるワークショップ 13:00~16:00

講師：沖縄NGOセンター 新膳 朋子・永田 有希

●目的

- ①自分のファミリーストーリーと体験記ワークショップを通して移民をより身近に感じ、理解を深める。
- ③唄から移民・多文化共生について考え、沖縄の良さに気づく。

●実施内容

- ①アイスブレイキング
- ②前回の事前学習のふりかえり
- ③ファミリーストーリー発表
- ④体験記
- ⑤「ガンバッテヤンド」リスニング
- ⑥「ガンバッテヤンド」ミニドラマ作成・発表

●結果

参加者同士でファミリーストーリーを共有や体験記をグループで読み取り、世界各国に広がる沖縄文化やアイデンティティーを学び、移民について関心が高まった。

●参加者の感想

—自分の先祖も移民した経験があるのか気になったので、調べようとおもいました。

—国でまとめた話しか聞いたことがなかったが、今回1人にフォーカスして体験記を知ることができたので良かった。

—移民した方たちはアルゼンチンやブラジルに移民しても、沖縄のことを忘れず、方言や食文化を受け継いでいることが素敵だと思った、

—ミニドラマを作成するのは楽しかったが、歌詞をしっかりと読み取ると出稼ぎの大変さを知った。

—移民先で辛い体験を乗り越えるウチナーンチュの強さを感じることができた。



日時：7月24日（水）

場所：那覇空港

ホストファミリーや国際交流団体など関係者の方々から温かい歓迎をうけた。



【アメリカ】 れいみ、メーガン、メイ



【カナダ】 カーナー



【メキシコ】 正美



【ペルー】 楓、ダン



【ブラジル】 ショウゴ、ルアナ



【アメリカ】 美代

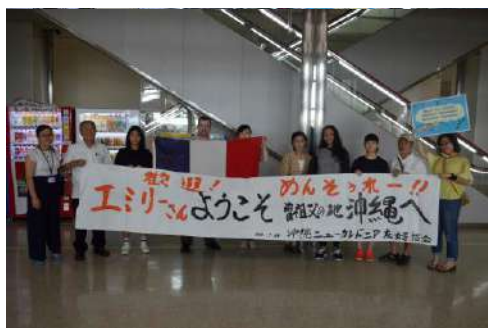
日時：7月24日（水）
場所：那覇空港



【オーストラリア】海



【ボリビア】幸子、太一



【ニューカレドニア】エミリー



【アルゼンチン】真由美、明理

学習プログラム 1 日目スケジュール

■【1日目】 7月28日（日）

**実施内容：●オリエンテーション ●交流プログラム
●移民・移住学習① ●ウェルカムパーティー**

- 09：00 開校式～オリエンテーション（パシフィックホテル沖縄 カネオヘ）
①主催者挨拶
②事業概要説明
③スタッフ紹介
④参加者自己紹介
⑤プログラム説明
⑥心得・注意事項説明
⑦リーダー選出・グループ発表
- 10：30 県人会紹介～第1部～
れいみ（アメリカ/アトランタ）
カーナー（カナダ/トロント）
真由美・明理（アルゼンチン）
メーガン（アメリカ/アラバマ）
ダン・楓（ペルー）
ショウゴ（ブラジル/カンボグランデ）
- 12：00 昼食（パシフィックホテル沖縄 ガーデンレストラン竜潭）
- 13：00 県人会紹介～第2部～
正美（メキシコ）
メイ（アメリカ/ワシントンD.C.）
海（オーストラリア/パース）
ルアナ（ブラジル/ブラジル）
幸子・太一（ボリビア）
美代（アメリカ/北米）
柁太郎・笑妃・日向（沖縄）
- <進行：卒業生ボランティア>
- 14：00 交流プログラム
①ゲーム：じゃんけん列車（Y M C A）・新聞紙乗りゲーム・人間知恵の輪
②ダンス：マカレナ・5!6!7!8!・Ai Se Eu Te Pego
- <進行：沖縄NGOセンター>
- 15：30 移民・移住学習
①アイスブレイキング
②宿題発表・共有
③グループの目的・目標設定
④ふりかえり・感想シート記入
- 18：30 ウェルカムパーティー（パシフィックホテル沖縄 ワイケレ）
①主催者挨拶
②乾杯の音頭
③県内参加者による余興
- 20：00 学習プログラム 1 日目終了

オリエンテーション 09:00~12:00

●目的

県内参加者・海外参加者が初めて顔を合わせる。一週間安全で楽しく学びの多いツアーにするため、本事業の趣旨やプログラムの内容を説明し、理解してもらう。

●実施内容

- ①主催者挨拶
- ②事業概要説明
- ③スタッフ紹介
- ④参加者自己紹介
- ⑤プログラム説明
- ⑥心得・注意事項説明
- ⑦リーダー選出・グループ発表



●結果

事業概要・心得・注意事項の説明を真剣に聞く姿勢が見られた。

また、海外参加者と県内参加者が初めて対面だったため、全体的に緊張した様子だった。

県人会紹介 10:30~12:00・13:00~14:00

●目的

海外参加者は県人会紹介、県内参加者は沖縄紹介を行い、参加者全員で他国の文化や習慣、県人会での活動を学ぶ。

●実施内容

- ①れいみ（アメリカ/アトランタ）
- ②カーナー（カナダ/トロント）
- ③真由美・明理（アルゼンチン）
- ④メーガン（アメリカ/アラバマ）
- ⑤ダン・楓（ペルー）
- ⑥ショウゴ（ブラジル/カンポグランデ）
- ⑦正美（メキシコ）
- ⑧メイ（アメリカ/ワシントンD.C.）
- ⑨海（オーストラリア/パース）
- ⑩ルアナ（ブラジル/ブラジル）
- ⑪幸子・太一（ボリビア）
- ⑫美代（アメリカ/北米）
- ⑬柊太郎・笑妃・日向（沖縄）



●結果

県人会紹介や沖縄紹介が始まると、他国の文化や習慣に興味を持ち、メモしたり質疑応答を行って、詳しく知りたいという参加者の姿勢が見られた。

●参加者の感想

各国によって県人会の規模が大小あるが、全ての県人会に沖縄の伝統・文化が親しまれていることがわかった。（県内参加者）

プレゼンのおかげでお互いの県人会について学ぶきっかけになった。（海外参加者）

交流プログラム 14:00~15:30

進行：卒業生ボランティア

●目的

ボランティアが進行役となり、参加者はグループに分かれゲームやダンスを行ないコミュニケーションの向上を目指す。

●実施内容

①ゲーム：じゃんけん列車（Y M C A）・新聞紙乗りゲーム・人間知恵の輪

②ダンス：マカレナ・5!6!7!8!・Ai Se Eu Te Pego

●結果

簡単な単語を使いながらコミュニケーションを取り、グループ対抗のゲームを楽しんでいた。ゲームやダンスで緊張がほぐれてチームワークが深めた。



●参加者の感想

交流プログラムで大半の海外参加者とコミュニケーションをとることができ、アイスブレイキングや交流の大切さを強く感じた。（県内参加者）

ゲームやダンスを通し、気楽になり、自分の殻がでることができ、楽しいプログラムだった。（海外参加者）

移民・移住学習 15:30~17:30

●目的

①事業参加の目的と意義を確認し、学習プログラムでの取り組みを意識する。

②県内参加者と海外参加者との仲間意識を高める。

●実施内容

①アイスブレイキング

②宿題発表・共有

③グループの目的・目標設定

④ふりかえり・感想シート記入



●結果

アイスブレイキングを通し、さらに仲を深めた。

県内参加者が事前に調べてきた海外参加者の国の移民について発表し、海外参加者は嬉しそうな様子だった。また、参加者全員は違う国の移民について学べた。

グループ内で個人の事業参加の目的を共有し、グループで目標設定することで仲間意識が強まった。

また事業の意義を再確認できた。

●参加者の感想

県内参加者が調べてきた海外移民について発表するだけでなく、海外参加者からの情報交換もすることができて、お互いに学びのあるプログラムだった。（県内参加者）

県内参加者が海外の国の文化や歴史のことを調べて発表したのが、とても良かった。これを機に海外の移民の歴史をもっと深く学んでほしいと思った。（海外参加者）

ウェルカムパーティー 18:30~20:00

●目的

海外・県内参加者同士が言葉や文化の違いにふれ、本事業を有意義なものにするために行う。県内参加者がホスト役となり余興を行い、海外参加者を歓迎する。

●実施内容

- ①主催者挨拶
- ②乾杯の音頭
- ③県内参加者による余興

●結果

県内参加者が司会を務め、余興では英語のスキットを始め、かぎやで風・三線・空手などの沖縄伝統の余興を行い、海外の流行ダンスやダイナミック琉球を取り入れ、大いに盛り上がった。

また、最後に参加者・スタッフ・来賓も全員でカチャーシーを踊り、一体感のあるウェルカムパーティーとなった。

●参加者の感想

最後のカチャーシーでは、県内参加者・海外参加者・関係者が1つになっている気がして、楽しいウェルカムパーティーだった。（県内参加者）

ご飯もおいしくて、県内参加者のパフォーマンスはどれも素晴らしかった。（海外参加者）



ウェルカムパーティー式次第

日時：令和元年7月28日（日）18：30～20：00
場所：パシフィックホテル ワイケレ

司会：前田 美海（那覇国際高校2年生）
木村 美月（鏡原中学校3年生）

18:35	開会	司会
18:35	歓迎の挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部 統括監：山城 貴子
18:40	乾杯の音頭	沖縄パンアメリカン連合会 会長：大山 盛稔（おおやま せいしん）
18:45	食事・懇談	
19:05	余興	司会
19:08	琉舞（かぎやで風）	なりみ・ひなた・にいな
19:18	三線	しゅうたろう・ひかる・おとの・こなつ
19:28	空手（普及型1・2）	なりみ・ひなつ・ひな・まあや・ みう・ひかり
19:34	ダンス（Lean On）	りゅうひ・けいた・みづき
19:40	ダイナミック琉球	県内参加者全員
19:46	カチャーシー	参加者全員
20:00	終了	全員

学習プログラム 2 日目スケジュール

■【2日目】 7月29日（月）

**実施内容：●県庁表敬訪問 ●歴史学習①/首里城公園見学
●文化学習/伝統工芸体験 ●社会学習/マチグワー散策**

- 07：00 朝食（パシフィックホテル レストラン竜潭）
- 08：00 パシフィックホテル出発～沖縄県庁 1 階 県民ホール
- 08：45 県庁表敬訪問
①歓迎セレモニー：参加者紹介・歓迎の挨拶・参加者代表挨拶
②記念撮影
- 09：30 県庁出発
- 10：00 首里城公園到着
- <ガイド：一般財団法人沖縄美ら島財団>
- 10：15 首里城公園見学
- 12：00 首里城公園出発
- 12：30 昼食（バンボッシュ国際通り牧志店）
- 13：45 那覇市伝統工芸館（那覇市てんぷす館）へ移動
- 14：00 伝統工芸体験：琉球漆器・紅型
- <ガイド：卒業生ボランティア>
- 15：30 マチグワー散策
- 17：00 パシフィックホテルへ移動
- 17：30 夕食（パシフィックホテル レストラン竜潭）
- 18：30 エイサー講習（パシフィックホテル カネオへ）
- 20：00 3 日目の流れ説明・振り返りシート配布
- 20：30 グループ内で 2 日目の感想を共有
- 21：00 学習プログラム 2 日目終了

歓迎セレモニー 8:45~9:30

場所：沖縄県庁 1階 県民ホール

司会：沖縄県交流推進課 仲村 美幸

●目的

沖縄県の行政の中核である県庁を表敬し、参加者一人一人に各国の代表だという意識を持たせる。県民に広く本事業開催を周知及びPRをする。

●実施内容

- ①歓迎セレモニー：参加者紹介・歓迎の挨拶・参加者代表挨拶
- ②記念撮影

●結果

参加者は各国の代表という気持ちで県庁表敬。県内参加者代表と海外参加者代表が1週間のプログラムで国際交流を深め・ルーツである沖縄について理解を深めると力強い意気込みを述べた。

●参加者の感想

参加者挨拶を聞いて、ウチナージュニアスタディーを通して、世界のウチナーンチュとの繋がりを作っていかうと思った。（県内参加者）

たくさんの国が繋がりが合っていて、自国の代表になれたことへの誇りを感じることができた。（海外参加者）



歴史学習 首里城公園 10:00~12:00

ガイド：一般財団法人沖縄美ら島財団職員

●目的

首里城見学を通して、「琉球王国」時代の食生活・貿易・文化などの歴史背景を学び、現在の沖縄に至る経緯を学ぶ。

●実施内容

- ①守礼門・首里城前で集合写真撮影
- ②首里城内見学

●結果

2グループに分かれ、各グループに専門ガイドが1名と通訳が付き、今年2月から新規開園した「御内原」も取り入れ、首里城内を見学した。首里城の建物構造やアジア国との交易など当時の琉球王国の異文化交流について学んだ。

●参加者の感想

沖縄の文化は中国と日本とのつながりが強く、影響されていること知った。また、ガイドさんが解説してくれたおかげで多くのことを学べた。（県内参加者）

琉球王国の国王がどのように住んでいたかを表す首里城はとても興味深く、沖縄の歴史や沖縄と日本、中国との関係もおもしろいと思いました。（海外参加者）



文化学習 那覇市伝統工芸館・工芸体験 14:00~15:15

●目的

琉球王国時代からの伝統工芸品である『紅型』の工芸体験を行い、沖縄の歴史文化に触れる。自分で作り上げた工芸作品はお土産として持ち帰る。

●実施内容

紅型の工芸体験をする。

●結果

琉球王国時代から受け継がれている伝統工芸品を実際に自分の手で作成し、工芸の楽しさ・歴史文化を学んだ。



●参加者の感想

沖縄の伝統工芸品である紅型の作り方を体験し、学ぶことができて良かったです。

(県内参加者)

工芸体験を通して、沖縄の工芸品を知ることができた。自分が好きな色でグラデーションにすることが楽しかった。(海外参加者)

社会学習 マチグワァー散策 15:30~17:00

ガイド：卒業生ボランティア

●目的

ボランティアがガイドとなり、公設市場や壺屋やちむん通り等を散策しながら、昔ながらの沖縄の食や生活文化に触れる。

●実施内容

各グループに2名のボランティアがガイドとして加わり、2つのコースに分かれ平和通り・公設市場を散策する。散策の途中でボランティアが作成したミッションゲームを達成しながら散策する。

●結果

ミッションゲームを行うことで、楽しく散策することができた。

残念ながら、公設市場が7月から仮設市場となったが、参加者は昔ながらの沖縄の食や生活文化を学んだ。

●参加者の感想

道端に焼き物のかけらがカラフルに散りばめられたり、おしゃれな焼き物屋さんがあったりして、伝統工芸品が現代人にとって身近に感じられるようになっているところが興味深かった。(県内参加者)

壺屋焼きのエリアを散策することで、違った面で沖縄の文化を見ることができ、沖縄の日常にも影響していると思いました。(海外参加者)



歓迎セレモニー式次第

日時：令和元年7月29日（月）08：45～09：30
場所：沖縄県庁1階県民ホール

司会：沖縄県交流推進課 仲村 美幸

08：45	開会	司会
08：47	参加者紹介	司会
08：57	歓迎の挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部 部長 新垣 健一
09：02	参加者代表挨拶	海外参加者代表 ボリビア多民族国 宮城 幸子 県内参加者代表 北谷高等学校 比嘉 柊太郎
09：12	閉会	司会
	～中庭へ移動～	
09：15	記念撮影	
09：30	県庁出発	

学習プログラム 3 日目スケジュール

■【3日目】 7月30日（火）

**実施内容：自然学習①/●美ら海水族館見学
●海の講習～バックヤード見学～
●イルカショー ●ビーチアクティビティ**

07：00 朝食（パシフィックホテル レストラン竜潭）

09：00 パシフィックホテル出発～海洋博公園

10：00 海洋博公園到着

10：15 美ら海水族館見学

<ガイド：一般財団法人沖縄美ら島財団>

11：30 海の講習～美ら海水族館バックヤード見学～

12：00 イルカショーの会場へ移動

12：15 昼食（弁当）

13：00 イルカショー見学（オキちゃん劇場）

13：50 海洋博公園出発～東村福地川海浜公園

15：00 東村福地川海浜公園到着・着替え

15：10 ビーチアクティビティ
海水浴・バナナボート体験

17：00 シャワータイム・着替え

17：30 東村福地川海浜公園出発～つつじエコパーク

17：35 つつじエコパーク到着・荷物を部屋へ

18：00 夕食（つつじエコパーク内レストラン）

19：30 エイサー講習

20：30 4日目の流れ説明・振り返りシート配布

21：00 学習プログラム 3 日目終了

自然学習① 美ら海水族館見学・海の講習・イルカショー見学 10:15～13:30

ガイド：一般財団法人沖縄美ら島財団職員

●目的

- ①美ら海水族館を見学し、海の生物に触れたり・沖縄の海という自然遺産の大切さを学ぶ。
- ②美ら海水族館のバックヤードにて海の講習を受講し、生物の飼育や飼育員の活動を学ぶ。

●実施内容

- ①美ら海水族館見学
- ②海の講習～美ら海水族館バックヤード見学～
(一般財団法人沖縄美ら島財団による自然学校)
- ③オキちゃんのイルカショー



●結果

水族館見学で様々な海の生物を観察して楽しんでいる様子だった。一般財団法人沖縄美ら島財団がガイドとなり、水族館のバックヤードを見学し、参加者は海の生物の飼育方法や飼育員の仕事などを学んだ。

●参加者の感想

初めてバックヤードを見て、魚のエサやりや水槽の掃除などしたりしている職員の皆さんの働きがあるからこそ、美ら海水族館があると改めて感じました。(県内参加者)

魚をどのように飼育するかを学べて、とても良い経験になった。(海外参加者)

自然学習① ビーチアクティビティ 15:15～17:00

●目的

- ①東村にある福地川海浜公園にて、沖縄の海を体験する。
- ②ビーチアクティビティを通して参加者のコミュニケーションを図る。

●結果

海水浴やバナナボートを楽しんだ様子だった。県内参加者と海外参加者が積極的にコミュニケーションを取り、写真撮影している様子がかがえて、絆が深まっている様子だった。海に入る機会の少ない海外参加者も数人おり、沖縄の海的美しさを体験することができた。

●参加者の感想

海外参加者に積極的に声をかけることができ、海外の海のことを教えてもらった。バナナボートはプログラムの中で1番笑うぐらい楽しかった。(県内参加者)

沖縄の海は透明で綺麗だった。ビーチが好きだったし、バナナボートも楽しかった。
(海外参加者)



学習プログラム4日目スケジュール

■【4日目】7月31日（水）

**実施内容：●自然学習②/東の沢トレッキング ●BBQ
●交流プログラム ●キャンプファイヤー**

08：00 朝食（つつじエコパーク内レストラン）

09：00 東の沢トレッキング

11：00 シャワータイム・着替え

12：00 昼食（つつじエコパーク内レストラン）

12：40 フリータイム

<進行：青年リーダー>

15：30 ワークショップ
ウチナージュニアスタディー事業に参加したキッカケを発表・共有

16：15 エイサー講習

17：30 夕食 BBQ

<進行：卒業生ボランティア>

18：30 キャンプファイヤー
①グループ対抗ゲーム：リアクションゲーム・飴玉探し・モノマネあてゲーム・
絵の伝言ゲーム・腕相撲対決
②友情の火を点火
③ダンス：マカレナ・5!6!7!8!・Ai Se Eu Te Pego
④集合写真撮影

21：00 5日目の流れ説明・グループリーダーに振り返りシート配布

21：20 学習プログラム4日目終了

自然学習② 東の沢トレッキング 09:00~11:00

ガイド：東村つつじエコパーク職員

●目的

大自然の中を専門ガイドによる説明を受けながらリバートレッキングを体験し、沖縄の自然を学ぶ。また参加者同士で手を取り合って互いに助け合い、チームワーク・絆を深める。



●実施内容

やんばるの東村で大自然を感じ、リバートレッキングを行なう。

●結果

東村でしか見られない生物を観察したり、大自然を感じながら、リバートレッキングを体験することで、沖縄の自然の豊かさを学んだ。また、険しい道では参加者同士で声を掛け合い、手を取り合ってチームワークを深めた。

●参加者の感想

何回も転んだけど、皆で声をかけながら助け合ってトレッキングをゴールできて楽しかった。
(県内参加者)

転びそうになったとき、周りの参加者が助けてくれて嬉しかった。とても美しい自然を感じることができた。(海外参加者)

キャンプファイヤー 18:30~21:00

企画・進行：卒業生ボランティア

●目的

グループ対抗ゲームを行い、さらに交流を深める。ゲームで盛り上がった後に参加者全員で友情の火を囲み、一生の友情を誓い合い、参加者同士がさらに絆を深める。



●実施内容

- ①グループ対抗ゲーム：リアクションゲーム・飴玉探し・モノマネあてゲーム・絵の伝言ゲーム・腕相撲対決
- ②友情の火を点火
- ③ダンス：マカレナ・5!6!7!8!・Ai Se Eu Te Pego
- ④集合写真撮影

●結果

交流プログラムでは、グループ対抗ゲームで大いに盛り上がり、楽しんでいる様子だった。その後のキャンプファイヤーでは、国境の壁を乗り越え、絆がさらに一層深まり、一生の友情を誓い合った。

●参加者の感想

各グループリーダーが点火したとき、とても感動的で、鳥肌がたちました。火を囲んでダンスをみんなで踊り、盛り上がって楽しかった。(県内参加者)

グループ対抗ゲームはとても楽しく、グループメンバー内の絆がさらに深まった。
(海外参加者)

学習プログラム5日目スケジュール

■【5日目】8月1日（木）

**実施内容：●平和学習/平和祈念資料館見学 ●平和の礎見学
●ひめゆり平和祈念資料館見学 ●平和構築ワークショップ
●歴史学習②/沖縄県立博物館見学**

07:00 東村つつじエコパーク出発～平和祈念資料館へ
バス内で朝食（つつじエコパーク内レストランの弁当）

09:00 平和祈念資料館到着

<ガイド：平和祈念資料館学芸班>

09:15 3グループに分かれ、平和祈念資料館常設展示室見学

10:00 トイレ休憩・平和の礎へ移動

10:30 平和の礎について説明

10:40 参加者の親族の刻銘者探し方の説明

10:50 グループに分かれ、刻銘を探し、紙写し・撮影

11:25 平和祈念資料館出発～優美堂

11:40 昼食（優美堂）

12:25 優美堂出発～ひめゆり平和祈念資料館

<講師：平和祈念資料館 古賀さん>

12:30 ひめゆり平和祈念資料館到着・ひめゆりの塔説明

12:40 アニメ「ひめゆり」鑑賞（ひめゆり平和祈念資料館 多目的ホール）

13:10 ひめゆり平和祈念資料館展示室見学

14:00 平和構築ワークショップ（ひめゆり平和祈念資料館 多目的ホール）
①「わたしの気持ち」シートを記入・発表
②「平和」をつくるための9つの方法シートを記入
③平和構築についてグループディスカッション・発表

16:00 ひめゆり平和祈念資料館出発～沖縄県立博物館へ

17:05 沖縄県立博物館到着

<ガイド：沖縄県立博物館学芸員>

17:10 2グループに分かれ沖縄県立博物館常設展示室見学（琉球沖縄コース・民族文化コース）

18:00 沖縄県立博物館出発～パシフィックホテル

18:30 夕食（パシフィックホテル レストラン竜潭）

19:30 エイサー講習（パシフィックホテル カネオへ）

20:30 6日目の流れ説明・振り返りシート配布

21:00 学習プログラム5日目終了

平和学習 平和祈念資料館 10:00~11:00

平和の礎 11:00~11:30

ガイド：平和祈念資料館学芸班 上原さん・他2名

●目的

- ①平和祈念資料館の常設展示室では沖縄戦の映像や展示資料を見ることで、平和や沖縄の歴史について学ぶ。
- ②平和の礎では事前に参加者から集めた刻銘調査書をもとに先祖の刻銘をグループメンバー全員で探し、先祖の刻銘を写し取る。

●実施内容

- ①ガイドの説明を受けながら沖縄戦の映像観賞・展示資料を見学。
- ②平和の礎の説明を聞く。
- ③グループで分かれ、参加者の先祖の刻銘を探し写し取る。

●結果

専門ガイドの説明を聞き、常設展示室を見学することで、さらに沖縄戦について詳しく知ることができ、「戦争は二度とさせてはいけない」という気持ちと、自分たちの先祖の過去について学び、平和への理解を深めることができた。

また参加者は平和祈念資料館での写真や資料を真剣な表情で、眺めたり、熟読する姿がうかがえた。

平和の礎の説明を聞き、造られた理由など学ぶことができた。

参加者は先祖の刻銘を見つけると紙に写し取り、写真を撮る参加者の姿が見られた。

●参加者の感想

とても考えさせられる写真や証言の資料がたくさんあり、特に再現されたガマなどを見ると、どれだけ戦争が恐ろしいものかを想像しながら、また肌で感じながら知ることができた。

(県内参加者)

沖縄戦について知識を深め、私たちの先祖が悲惨な出来事に巻き込まれていたという一生忘れられない経験をしました。戦争で罪のない人々が苦しんだことがとても悲しいです。

(海外参加者)



平和学習 ひめゆり平和祈念資料館 12:30~14:00

●目的

- ①ひめゆりの塔について学ぶ。
- ②アニメ「ひめゆり」を鑑賞し、映像でひめゆり学徒隊について学ぶ。
- ③展示室を見学し、戦争の悲惨さ・平和の尊さを学ぶ。

●実施内容

- ①ひめゆりの塔の説明を聞く。
- ②アニメ「ひめゆり」を鑑賞。
- ③ガイドの説明を聞きながら、ひめゆりに関する戦争の展示室を見学。

●結果

展示室ではガイドの説明を聞きながら展示物などを見学することで、戦争の悲惨さを再認識した。

平和学習 平和構築ワークショップ 14:00~16:00

講師：ひめゆり平和祈念資料館学芸課 古賀さん

●目的

展示室見学後、平和構築ワークショップを通して、平和構築のために何が大切なのか必要なのか、今自分たちに何ができるのかをグループで意見を出し合い、今後の平和構築に向けて発表する。

●実施内容

- ①「わたしの気持ち」シートを記入・発表
- ②「平和」をつくるための9つの方法シートを記入
- ③平和構築についてグループディスカッション・発表

●結果

グループディスカッションでは、それぞれ違う国から見た視点で意見交換を行った。参加者全員で平和構築するための意見共有できた。

●参加者の感想

いろいろな国の意見を直接聞いて、一緒に考えることで今までと全く違う見方をすることがワークショップを通してできたので、とても良かった。（県内参加者）

私たちは、また同じ過ちを避けるために戦争について知らなければならないことと、そして自ら平和を求めなければならないということを学んだ。参加者全員で平和について意見交換できたことが良かった。（海外参加者）



歴史学習② 沖縄県立博物館 17:10~18:00

ガイド：沖縄県立博物館学芸員 外間さん・阿利さん

●目的

常設施設では、原始時代から琉球王国までの歴史、現在の沖縄と今までの歴史・文化、琉球王国時代の伝統工芸などの解説を聞き、縄文人からウチナーンチュへの文化・歴史について学ぶ。

●実施内容

2グループに分かれ、各グループに学芸員が1名付き、常設展示室を見学し、学芸員の説明を聞く。

琉球沖縄コース（25分間）

民族文化コース（25分間）

●結果

学芸員の説明を聞きながら、昔使用されていた食器や工芸品・琉服などの展示品を実際に鑑賞し、原始時代・琉球王国・沖縄の長い歴史や文化を詳しく学ぶことができた。

●参加者の感想

琉球王国時代から現代の沖縄までの全般の歴史について学んだ。「沖縄は海に囲まれているのではなく、その海を越えて交流するDNAを持っている」とガイドさんが話してくれたことが印象に残った。また琉球王国時代の職人の技術の高さに驚いた。（県内参加者）

琉球王国・沖縄の日常生活や家や服などの文化について、多くのことを博物館で学ぶことができた。ガイドさんが説明してくれたおかげで、さらに沖縄の歴史・文化について興味が湧いた。（海外参加者）



学習プログラム6日目スケジュール

■【6日目】8月2日（金）

**実施内容：●移民・移住学習② ●県人会紹介
●アルベルト城間氏特別講演**

07：30 朝食（パシフィックホテル レストラン竜潭）

08：30 パシフィックホテル出発～沖縄県立図書館へ

<進行：沖縄NGOセンター>

09：00 ワークショップ

①アイスブレイキング：海外のジャンケン

②グループの目標達成度の確認・グラフ作成・発表共有

10：35 県人会紹介～第3部～

11：00 アルベルト城間氏特別講演

①ルーツについて講話

②質疑応答

③記念写真撮影

12：00 沖縄県立図書館～沖縄県市町村自治会館へ

12：10 昼食（弁当）

13：15 沖縄県市町村自治会館～沖縄県立図書館へ

<進行：沖縄NGOセンター>

13：30 ワークショップ

①学習プログラムのふりかえり共有

②世界のウチナーンチュ大会が大切にしていることについて考える

③アクティビティ：足ジャンケン大会

④個人とグループで行動宣言作成・発表共有

⑤ふりかえり

16：30 1分間スピーチ作成

17：30 沖縄県立図書館～パシフィックホテルへ

18：30 夕食（パシフィックホテル レストラン竜潭）

20：00 エイサー講習（沖縄県男女共同参画センターていりる ホール）

21：00 7日目の流れ説明・振り返りシート配布

21：10 学習プログラム6日目終了

移民・移住学習 ワークショップ 09：00～10：30

進行：沖縄NGOセンター 新膳 朋子

●目的

- ①学習プログラム 1 日目に決めたグループ目標の達成度を確認する。
- ②学習プログラムをふりかえり、学んだこと、感じたことを書きだし、客観的に分析する。

●実施内容

- ①アイスブレイキング：海外のジャンケン
- ②グループの目標達成度を確認・グラフ作成・発表共有

●結果

1 日目の決めた目標に対し、グループ内で学習プログラムをふりかえり、話し合っってグラフ表を完成させた。

発表では 5 つグループ全てが目標に対し、全体的に達成度が高かった。

アルベルト城間氏特別講演 11：00～12：00

講師：アルベルト城間(ディアマンテス)

●目的

- ①アルベルト城間さんのルーツについて学ぶ。
- ②ペルー 3 世から見た沖縄についてを学び、理解する。

●実施内容

- ①ルーツについて講話
- ②質疑応答
- ③記念写真撮影

●結果

講演を聞いて、ペルーでも沖縄文化が引き継がれることを学び、またウチナーンチュの力強さを知り、沖縄にルーツがあることを誇りに持つことができた。

●参加者の感想

歌手の面でしか見たことがなかったが、今回初めて「移民関係がある人」として講演を聞き、ウチナーネットワークという目線から見てみて、「平和」「感謝」「努力」といった言葉のキーワードが出ていて、UJSと共通するものがあり、私の心に刺さりました。（県内参加者）

アルベルト城間さんのルーツはとても興味深く、彼が実際にやっている事はウチナーネットワークに貢献していると思いました。（海外参加者）



ワークショップ 13:30~16:30

講師：沖縄NGOセンター 新膳 朋子

●目的

学習プログラムをふりかえり、学んだこと、感じたことをまとめ、この経験を今後どのように活かすかを考える。

●実施内容

- ①学習プログラムのふりかえり共有
- ②世界のウチナーンチュ大会が大切にしていることについて考える
- ③アクティビティ：足ジャンケン大会
- ④個人とグループで行動宣言作成・発表共有
- ⑤ふりかえり

●結果

グループ内で学習プログラムのふりかえりを付箋にたくさん書いて、客観的に見ることで新しいことを発見できた。それをグループ内でも共有できた。

今後のウチナーネットワーク構築どうしていきたいのかについて考え、難しい課題であったが真剣に取り組み、議論していた。

●参加者の感想

みんなそれぞれ違った意見を聞くことができ、その中でも「ウチナーンチュの文化を次世代に繋げていく」という意見が出てきて、私は1番大切なことだと感じた。（県内参加者）

グループメンバーでプログラムの5日間を振り返り、思い出をシェアすることができた。また、ウチナーンチュの文化などを再確認することができました。（海外参加者）



学習プログラム7日目スケジュール

■【7日目】8月3日（土）

**実施内容：●リハーサル ●修了式 ●報告会
●さよならパーティー ●エイサー演舞**

- 07：00 朝食（パシフィックホテル レストラン竜潭）
荷物まとめ
- 08：45 ホテル出発～開南小学校へ
- 09：00 開南小学校到着・修了式の会場設営
- 09：30 リハーサル
- 12：00 昼食(弁当)
- 12：30 来賓・一般参加者受付開始
- 13：00 報告会及び修了式
①1分間スピーチ(海外参加者→県内参加者)
②主催者挨拶
③修了証授与(海外参加者→県内参加者→青年リーダー)
- 14：30 修了式終了・会場転換
- 15：00 さよならパーティー
①乾杯の音頭
②食事・懇談・思い出のスライドショー
③海外参加者による余興
④エイサー演舞
⑤カチャーシー
⑥卒業生からの送る言葉
⑦記念写真撮影
- 16：50 さよならパーティー終了・開南小学校出発～パレットくもじ前広場へ
- 17：15 エイサー演舞
①演舞
②エイサー講師へ感謝の言葉
③記念写真撮影
- 17：50 パレットくもじ前広場～開南小学校へ
- 18：10 説明事項
①アフタープログラム日時
②作文説明・配布
- 18：20 学習プログラム7日目終了・荷物引取り
- 18：30 解散

報告会・修了式 13:00~14:30

司会：沖縄県交流推進課 仲村 美幸

●目的

参加者の保護者・ホストファミリーや事業関係者を招待し、1週間の事業プログラムを通して、思い出や国際交流・沖縄の文化について発表。これから自分がどういう行動をするのか各自1分間でスピーチを行なう。

参加者全員に事業プログラムの修了証授与。



●実施内容

① 1分間スピーチ(海外参加者→県内参加者)

② 主催者挨拶

③ 認証状授与：海外参加者

④ 修了証授与：県内参加者

⑤ 感謝状授与：青年リーダー

プレゼンター：沖縄県文化スポーツ部 部長 新垣 健一

●結果

学習プログラムの思い出を振り返りながらスピーチを行う参加者の中には涙を流す者もあり、他の参加者も釣られて、みんなで涙を流し、思い出を共有する場面があった。

県内参加者は海外の県人会に行き、海外参加者と再会すると宣言が多かった。

海外参加者は日本語・ウチナーグチを勉強することと世界のウチナーンチュ大会に参加するため、沖縄に帰ってくると宣言が多かった。

賞状を受け取った参加者は笑顔が見受けられ、初日に比べると全員成長している顔つきになったと感じた。

●参加者の感想

みんなのスピーチを聞いて、思い出をよみがえって、涙が止まらなかった。(県内参加者)

参加者全員の言葉は私の心を動かし、とても感動しました。(海外参加者)

さよならパーティー 14:30~17:30

●目的

海外参加者が余興で各国の伝統芸能や特技を披露する。

●実施内容

① 乾杯の音頭

② 食事・懇談・思い出のスライドショー

③ 海外参加者による余興

④ エイサー演舞

⑤ カチャーシー

⑥ 卒業生からの送る言葉

⑦ 記念写真撮影



●結果

海外参加者が司会を務め、食事・懇談の際に上映した思い出のスライドショーは青年リーダーが作成し、参加者は笑ったり、思い出して泣いてるシーンも見受けられた。

また各国の伝統芸能や特技を披露し、県内参加者・来賓は異文化の余興パフォーマンスを楽しんで見ていた。

●参加者の感想

各国のダンスやパフォーマンスを見て、県内参加者は異文化を知ることができました。

(県内参加者)

青年リーダーが作成した思い出のスライドショーを見て、笑いあり、涙ありでとても感動するスライドショーでとても良かった。(海外参加者)

エイサー演舞 17:15~17:50

場所：パレットくもじ前広場

●目的

パレットくもじ前広場にて参加者が事業プログラム中に練習したエイサーを一般県民の前で披露する。

また会場内の皆さんに事業プログラムを説明し、沖縄県が取り組んでいる事業を紹介。

●実施内容

①ウチナージュニアスタディー事業について説明

司会：中村 優太（2016年参加者）

②エイサー演舞

③参加者からエイサー講師への感謝の言葉

④参加者への花道

⑤集合写真撮影

●結果

参加者は多くの県民の前で1週間練習したエイサーを自信をもって力強く演舞した。

演舞終了後、参加者の代表がエイサー講師に感謝の言葉をスピーチし、参加者全員で5か国語で「ありがとう」を伝えた。

演舞を終えて花道を通った後、参加者同士涙を流し強く抱擁を交わしている姿が感動的だった。

●参加者の感想

これまで参加者全員で頑張ってきたエイサーを、最後一つになって全力で演舞できたことに嬉しかったし、とても感動しました。（県内参加者）

沖縄で参加者全員と琉球國祭り太鼓と演舞できたことが夢のようでした。（海外参加者）



修了式次第

日時：令和元年 8 月 3 日（土）13：00～14：30
場所：開南小学校体育館

司会：沖縄県交流推進課 仲村 美幸

13：00	開会	司会
13：03	参加者による 1 分間スピーチ	参加者全員
14：30	主催者挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部 部長 新垣 健一
14：05	認証状授与(海外参加者) 修了証授与(県内参加者) 感謝状授与(青年リーダー)	プレゼンター 沖縄県文化観光スポーツ部 部長 新垣 健一 助手 2 名：卒業生ボランティア
14：30	閉会 ステージ転換	司会
15：00	さよならパーティー開始	

さよならパーティー式次第

日時：令和元年8月3日（土）15：00～16：50
場所：開南小学校体育館

司会：ホーキンス 海（オーストラリア）
安次富 ステファニー 美代（アメリカ）

15：00	開会	司会
15：02	乾杯の音頭	沖縄パンアメリカン連合会（沖縄カナダ協会） 会長 大山盛稔（おおやま せいしん）
	食事・懇談	思い出のスライドショー
15：15	余興	司会
	西オーストラリア紹介	海（オーストラリア）
	ルービックキューブ	カーナー（カナダ）
	ボリビアダンス	幸子・太一（ボリビア）
	コンドルパーサ（三線）	ダン・楓（ペルー）
	モリスマスダンス	正美（メキシコ）
	加那ヨー	美代（アメリカ）
	歌	メーガン（アメリカ）
	バイオリンのチャカレラ（ダンス）	真由美・明理（アルゼンチン）
	アナコンダダンス	ダン・楓（ペルー）
	タヒチダンス	エミリー（フランス）
	ブラジルダンス	ショウゴ・ルアナ（ブラジル）
	ザ・カップソング	れいみ・美代・メイ（アメリカ）
16：25	エイサー	参加者全員
16：40	カチャーシー・集合写真	参加者全員
16：45	感謝の挨拶	海外青年リーダー 山城太一
16：48	卒業生から送る言葉	ボランティア
16：50	閉会	

エイサー講習

講師：琉球國祭り太鼓 国際部長 佐久田 瞬香

日時・場所

7月29日 18：30～20：00 パシフィックホテル カネオヘ
7月30日 19：30～20：30 東村つつじエコパーク PA棟広場
7月31日 16：15～17：20 東村つつじエコパーク PA棟広場
8月1日 19：30～20：30 パシフィックホテル カネオヘ
8月2日 20：00～20：50 沖縄県男女共同参画センターていりる ホール

●目的

最終日のさよならパーティーで県内参加者の保護者・ホストファミリー・関係者の前で演舞を披露する。

さよならパーティー終了後はパレットくもじ前広場で一般県民の前で演舞を披露する。

●実施内容

エイサー講師は琉球國祭り太鼓所属の佐久田瞬香氏の指導のもと、参加者は学習プログラム中にエイサー練習を行い「ミルクムナリ」と「海の声」の2曲覚える。

さよならパーティー・パレットくもじ前広場でエイサー演舞を披露。

●結果

エイサー未経験の参加者が多かったが、講師の指導を真剣に聞き、練習を取り組む姿勢が見受けられた。

また琉球國祭り太鼓の国際支部に入っている参加者が他の参加者に教える姿も見受けられ、とても良い雰囲気で行なった。

エイサー講師の日本語と英語での2か国語指導・参加者同士のコミュニケーションがあったので短い時間の中で2曲の演舞を完成できた。

●参加者の感想

みんな教え合って練習してきたエイサーは、とても楽しかった。（県内参加者）

短い期間の中で、2曲覚えることができ凄いなと思う。これも参加者全員で練習したおかげだと感じた。（県内参加者）

エイサーを通して、参加者の団結と理解の時間を過ごせた。瞬香先生には大変感謝しております。（海外参加者）



アフタープログラム

■【アフタープログラム】 8月6日（火）

**実施内容：●ワークショップ ●展示物制作
●7日目振り返りシート・作文提出 ●Tシャツ寄せ書き**

13：00 集合・出席確認

13：10 沖縄県主催の事業紹介

<進行：沖縄NGOセンター>

13：30 ワークショップ

①先輩たちのお話し（経験・体験談）：仲村 明（沖縄NGOセンター）・
山城 太一・阿武 真帆（青年リーダー）

②個人の行動宣言を作成

15：00

展示物作成についての説明

15：10

展示物作成

～プログラム7日目の振り返りシート・作文を提出～

16：30

Tシャツに寄せ書き

16：50

片付け

17：00

終了・解散

アフタープログラム

日時：8月6日（土） 09：00～17：00

場所：沖縄県立博物館

アフタープログラム 13：00～17：00

進行：沖縄NGOセンター 新膳 朋子・仲村 明

●目的

- ①事業に参加して、大切にしたいと思ったことを、今後の活動につなげていく。
- ②事後報告会・おきなわ国際協力・交流フェスティバルに向けての展示物を作る。
- ③思い出として、参加者同士でオリジナルポロシャツに寄せ書きをする。

●実施内容

- ①先輩たちのお話し（経験・体験談）：仲村 明（沖縄NGOセンター）・
山城 太一・阿武 真帆（青年リーダー）
- ②個人の行動宣言を作成
- ③展示物の説明・作成 ～ 7日目の振り返りシート・作文を提出～
- ④ポロシャツに寄せ書き

●結果

先輩たちの体験談を聞き、参加者は事業後のどのような活動をするかについて考えることができた。

行動宣言では、「明日からできること」・「1ヵ月以内でできること」・「1年以内でできること」を考えた。

グループで話し合い、完成度の高い展示物が作成できた。

またTシャツの寄せ書きでは、「また会おう」という言葉など再会の誓いも書かれていて、参加者は強い絆でこれからも繋がっていくと感じた。



日時：8月7日（水）
場所：那覇空港



【アメリカ】 れいみ



【ニューカレドニア】 エミリー



【アルゼンチン】 明理、真由美



【ペルー】 楓、ダン



【ブラジル】 ルアナ、ショウゴ



【アメリカ】 美代



【アメリカ】 メーガン



【ボリビア】 太一、幸子

日時：8月7日（水）
場所：那覇空港



【メキシコ】正美



【オーストラリア】海



【カナダ】カーナー



【アメリカ】メイ



見送りの日は、多くの県内参加者は空港に駆けつけ、ホストファミリーやスタッフと一緒に海外参加者を見送った。

搭乗時間まで、参加者同士ボディランゲージなどでコミュニケーションをとる姿が見られ、事業を通し、積極的にコミュニケーションが取れる国際人へと成長していた。

また、海外参加者が搭乗口に向かう際に、先ほどまで笑顔で話していた参加者も急に泣き出す姿や強く抱擁する姿がとても印象的だった。

見送りに参加できなかった県内参加者とテレビ電話で会話をしている姿も見られ、一週間という短い時間ではあったが、強い絆で結ばれたと感じた。

■【事後学習】9月7日（土）

**実施内容：●ワークショップ ●沖縄県主催の事業紹介
●展示物制作 ●事後報告会の説明**

12：30 集合・出席確認

<進行：沖縄NGOセンター>

13：00 ワークショップ

- ①アフタープログラムで作成した行動宣言を発表
- ②新聞記事から学ぶ世界のウチナーネットワーク

13：55 トイレ休憩

14：05 沖縄県主催の事業紹介

14：45 展示物作成についての説明

14：50 展示物作成

15：50 トイレ休憩

16：00 今後の活動発信について

16：30 事後報告会について説明

17：00 終了・解散

日時：9月7日（土） 13：00～17：00

場所：沖縄県立博物館

進行：沖縄NGOセンター 永田 有希

●目的

- ①各自行動宣言をふりかえり今後の活動イメージにつなげる。
- ②事後報告会・おきなわ国際協力・交流フェスティバルに向けての展示物を作る。

●実施内容

- ①アフタープログラムで作成した行動宣言を発表
- ②新聞記事から学ぶ世界のウチナーネットワーク（エミリーの記事等）
- ③沖縄県主催の事業紹介
- ④展示物の作成
- ⑤事後報告会について説明

●結果

アフタープログラムで作成した行動宣言を発表し、共有することができた。

エミリーの新聞記事を読み取り、ウチナーンチュの繋がりを改めて感じた。

アフタープログラムで作成した展示物に文章を付け加えて、行動宣言の展示物を完成させた。



事後報告会

■【事後報告会】10月5日（土）

実施内容：●グループ発表 ●クロストーク ●行動宣言発表
●沖縄県主催の事業紹介

12：00 集合・出席確認

12：30 来賓・一般参加者受付開始

13：00 報告会開始

- ①主催者挨拶
- ②グループ発表
- ③クロストーク
- ④質疑応答
- ⑤行動宣言

15：45 沖縄県主催の事業紹介

16：30 閉会

日時：10月5日（土） 13：00～16：30

場所：沖縄産業支援センター

司会：協同組合 沖縄産業計画 比嘉 礼己

●目的

- ①事業関係者を招待し、県内参加者が事業をふりかえりグループ発表する。
- ②司会と県内参加者でクロストークを行い、事業の思い出をふりかえり発表する。
- ③事業の行動宣言を発表する。

●実施内容

- ①主催者挨拶
- ②グループ発表
- ③クロストーク
- ④質疑応答
- ⑤行動宣言
- ⑥沖縄県主催の事業紹介

●結果

各グループが各テーマについて作成しており、内容もとても上手くまとまっていて分かりやすい発表だった。

クロストークでは、司会の質問に対しても楽しく答えて、会話のキャッチボールが上手くできた。途中会場がにぎやかになるシーンもあった。

沖縄県主催の事業紹介も真剣な表情で聞いていた。



日時：令和元年10月5日（土）13：00～16：30
場所：沖縄産業支援センター3階中ホール

司会：協同組合 沖縄産業計画 比嘉 礼己

13：00	開会	司会
13：02	主催者挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部 交流推進課課長 伊田 幸司
14：35	グループ発表	県内参加者（5グループ）
14：45	クロストーク	司会・県内青年リーダー 県内参加者
15：20	行動宣言発表	県内参加者
15：45	沖縄県主催の事業紹介	沖縄県文化観光スポーツ部 交流推進課 仲村 美幸
16：30	閉会	司会

日時：11月2日（土） 10：00～17：00

11月3日（日） 10：00～16：00

場所：JICA沖縄国際センター 本館2階201号室 沖縄県ブース

おきなわ国際協力・交流フェスティバル2019

●実施内容

11月にJICA沖縄国際センターで開催された「おきなわ国際協力・交流フェスティバル2019」の沖縄県ブースにて、アフタープログラム・事後学習で作成した展示物を展示し、来場された多くの方たちにウチナージュニアスタディー事業紹介を行なった。



展示物全体の写真



アフタープログラム・事後学習で作成した展示物



県内参加者が作成した「ウチナージュニアスタディーかるた」

【日時】

10月12日（土）

【参加者】

比嘉 柁太郎（沖縄県立北谷高等学校 3年生）
高原 小夏（昭和薬科附属高等学校 2年生）
松根 乙希（沖縄県立具志川高等学校 3年生）
永山 笑妃（沖縄県立具志川高等学校 1年生）
高橋 香穂（昭和薬科大学附属高等学校 2年生）

【参加イベント】

令和元年度世界のウチナーネットワーク強化推進事業（次世代討論会）

【実施内容】

「国際交流・海外派遣・留学等の事業に参加したことのある人」や「世界のウチナーネットワークに興味のある若者」が参加し、交流アクティビティーを行ったり、自分自身の経験したことを発表・共有を行う。

柁太郎・小夏はウチナージュニアスタディーで国際を通して学んだことや次世代に繋ぐウチナーネットワークについて発表した。



【日時】

10月13日（日）

【参加者】

比嘉 柁太郎（沖縄県立北谷高等学校 3年生）

【参加イベント】

第5回世界ウチナーンチュ学生サミット

【実施内容】

「ウチナーンチュ・アイデンティティを活用した沖縄と世界への貢献策」をテーマとした意見交換会や県系人・学生の交流会を行なう。



【日時】

10月26日（土）

【参加者】

高橋 香穂（昭和薬科大学附属高等学校 2年生）
雨瀬 ひかる（沖縄県立具志川商業高等学校 3年生）

【参加イベント】

世界のウチナーンチュフェスティバル in 沖縄市 ～ラテン☆スペシャル～
レッツスタディー 1030！ 世界のウチナーンチュの日ワークショップ

【実施内容】

沖縄NGOセンターの協力で、ウチナージュニアスタディーのプログラム中の写真を使用し、『ウチナージュニアスタディーかるた』を作成した。イベント内でお客さんにウチナージュニアスタディーかるたで遊んでいただくとともに本事業のPRにも繋げた。





城間 万采 (14)

Maya Shiroma

那覇市立神原中学校

私はこのプログラムが始まる前まで友達を作って楽しめるかなという不安と期待が入り混じった感じでした。

プログラムが始まり海外参加者たちの国や沖縄県人会の取り組みについてなど様々なことを知ることができました。これまではそこに住んでいる彼らに直接聞くことがあまりできないからとても面白かったです。

私が一番楽しかったのは、ボランティアの方々が用意してくれていた沢山の交流プログラムです。海外参加者と言葉が通じなくても楽しめるようなことを考えてくれていて本当にボランティアの方々がいたおかげで仲良くなったのも同然なので感謝しています。

私がこのプログラムに参加した理由である沖縄のことをもっとよく知るということを首里城見学では昔、琉球だった時代から知ることができました。また、沖縄の伝統工芸品の紅型で正しい色の塗り方を教えてもらい、想像を超えるものが出来上がって嬉しかったです。

マチグラー散策ではいつも通っている道に面白いものがあると知らずにいた自分が少し恥ずかしくなりました。東村では山に囲まれたところに川トレッキングのできる場所があること初めて知って、とても楽しかったから、またみんなで来たいと思いました。

そして、沖縄の人ならば知っておかなければならない沖縄戦について小学校では学習はしていたけれど中学生になって平和祈念資料館に来てみると違う視点で色々な展示物を見ることができました。ガイドさんの説明もわかりやすく聞きながら想像して少し苦しくなりました。ひめゆりの塔でも同い年くらいの子達が苦しんでいたと考えるだけで心が痛いし、壕の中が再現されているものでは暗くてひんやりしていて当時の状況に置かれた感覚になって怖かったです。博物館では沖縄の民俗文化を知ることができて面白いと感じました。

私達グループの目標である色々なことを学び、みんなと友達になるということが最終日には100%で達成できたと思います。他にもないこのウチナージュニアスタディー2019の参加者だからこそできたことだとプログラムが終わってみて感じました。みんなとお別れしたくないと思うようにまでなれたのは本当に一週間でとても絆が深まったということだと思います。中学校最後にとってもいい思い出を作ることができました。



木村 美月 (14)

Mizuki Kimura

那覇市立鏡原中学校

私はこの事業を通して、海外のウチナーンチュと意見や考え方を共有したことで、世界のウチナーンチュとの絆の輪ができ、強くなったと思います。また、自分の中で沖縄の見方が変わったと思います。

事前プログラムでは、UJSのボランティアOBOGによる、ダンスなどの講習や、移民についてを歌っているアルベルト城間さんの「ガンバッテヤンド」の歌詞でミニドラマを作り、NGOのみなさまによる移民・移住学習、これでは私の父の国、台湾の移民・移住について私は調べたのですが、明るい話や暗い話もあり、こんなに知らないことがあったんだと驚かされました。

1日目、初めて海外のウチナーンチュと顔合わせで、本当に仲良くなれるのか、そもそも話すことができるのか、実はとても不安と緊張でいっぱいでしたが、お昼の時間、同じテーブルに座って、同じアニメや歌手が好きだという共通点を見つけ、すぐに打ち解けることができました。そこから、首里城や伝統工芸の体験や沖縄県立博物館を見学した、文化・歴史学習では、知っている知識をより深め、知らない沖縄の歴史について学び、社会学習のマチグワァー散策では、知っているやちむん通りに、いろいろな工夫があって、とてもウキウキして、自然学習では、沖縄の自然の美しさを身に持って体験し、とても感動し、平和学習では、戦争のむなしさや残酷さを自分の目を通し、実感しました。

私は学習が終わり、バスに乗るたび、隣になった県内、海外の方と、意見交換を積極的にできたため、私の中で、沖縄の見方だけでなく、物の見方そのものが広がった気がします。

この事業のおかげでできた、世界のあちこちに住む仲間と、この絆の話を切らないよう、この沖縄を、私たちが次世代へと受け継いでいこうと思います。ありがとうございました。



高良 ひなつ (13)

Hinatsu Takara

沖縄尚学高等学校附属中学校

参加者の中で最年少の私は、皆と友達になったり、一緒に学習できるか不安でした。ですが、皆その不安を吹き飛ばすぐらい優しく話しかけてきてくれて安心しました。

初日のウェルカムパーティーでは空手やダイナミック琉球を披露し、とっても盛り上がったので良かったです。

二日目の首里城見学は、初めてガイドさんに説明してもらい、何の意味があるのか、ひとつひとつ意味を理解できて良かったです。マチグワァー散策ではボランティアが考えてくれたルートを歩き、グループでミッションをクリアしていきました。みんなで置物を探したり、写真を撮ったりグループの仲が深まった気がしました。二日目に、初めてエイサー練習が始まりました。普段、一緒にエイサーを踊るしゅんかねえねえが友達に1から教えているのを見て少し遠く感じました。

三日目は、美ら海水族館へ行きました。沖縄に住んでいても、中々行かないのですごく楽しかったです。バックヤード見学では、貴重なジンベエザメの餌やりを見ることができました。その後海に行き、バナナボート体験をしました。皆で、たくさん叫んで本当に楽しめたので良かったです。その日のエイサー練習は、外でやりました。蚊が本当にたくさんいて、明かりが少ない中の練習は大変だったけど、みんなほとんど踊っていて、本当にびっくりしました。

四日目は朝から、東の沢トレッキングをしました。すべりやすい所や足がとどかない所も、グループの人が教えてくれて、少し恐怖心もあったけど、心から楽しめることができました。その後の休憩時間、思いっきり遊ぶつもりだったのに疲れすぎて、お昼寝の時間になっちゃいました。その日から、エイサー2曲目の海の声の練習を始め、私も海の声が苦手なので、みんなと一緒に上達することができてうれしかったです。エイサー練習の後のBBQは最高でした！ボランティアの人がいてくれたから、こんなに楽しめるんだなと感じました。交流プログラムのパン食い競争で、ちゃんと作戦を立てたのに、本番で発揮できなくて悔しかったです。キャンプファイヤーの時にみんなでダンスを踊った時は、本当に笑いの絶えない時間で一生の思い出になると思います。その日の夜、5人くらいで、ベランダに出て、星を見ました。建物や街灯が無くて、本当に本当にきれいでした。女子トークの恋バナをしたり、プログラム中の思い出を話したり、一番楽しい夜になりました。

五日目は、平和学習に行きました。沖縄に住んで、初めてこんなに深く平和について考え、悲しい気持ちになりました。平和記念公園のガマの中に入った瞬間、恐怖心がこみ上げてきました。平和の礎を見た時、あまりにも多くの人が亡くなったことを目の当たりにしました。ひめゆりの塔でみた証言は、あまりにもリアルで本当に人間なのかなと思った程でした。人間が人間を殺したり、母親が赤ちゃんを殺したり、これほど悲しいことはないと思います。今、普通に友達とくだらない話をして笑い合えるのも幸せなんだと学び、平和の大切さを改めて知ることができました。

六日目のグループの目標を達成できたかまとめた時に、たくさん友達も増え、沖縄についてわかるようになった事もたくさん増えた事を実感することができました。アルベルト城間さんの講演で、みんな、自分の故郷と沖縄を同じくらい愛していることを話してくれました。その時は、とてもうれしかったです。最後の日の夜なのでこの日は、夜遅くまで、お菓子パーティーをしました。言葉が違うのに、こんなにお互いがコミュニケーションを取って、笑い合えるんだと感動しました。深夜のお菓子パーティーは、私にとってすごくいい思い出になりました。

最終日の朝ごはん、みんなで食べる最後の朝食と考えると、本当に切なくなりました。修了式の1分間スピーチで、海外参加者が頑張って日本語を話しているのをみてとてもうれしかったです。皆のスピーチが本当に素敵で、1人1人の思いが詰まっていて、泣くつもりじゃなかったのに、涙が出てきました。さよならパーティーで、皆がひろうしてくれたものも、全部覚えています。衣装もきれいで、踊りや歌が上手でとても輝いていました。エイサー演舞の時、いつも一緒に踊っている仲間たちが「どうだった?」「たのしかった?」などの感想を聞いてくれてうれしかったです。皆のへいしがおおきくて、演技も素晴らしくて、私はみんなとエイサーを踊れて絆が生まれたと感じました。分からないところを教え合ったり、一生懸命練習している姿はかっこよかったです。エイサー演舞が終わった後、もうプログラムが終わるんだなと思うと本当に本当にさみしかったです。

今回のプログラムで私は、新たに沖縄の事について知らない事ばかりでしたが、県人会の紹介やお互いのコミュニケーションを取っていく中で、みんなの沖縄への愛が伝わってきました。もう、すぐには会えないのは辛いけど、2年後の世界のウチナンチュ大会で参加者全員に再会したいです。海外参加者とのコミュニケーションが少しすくなかったという反省を次またこのようなプログラムに参加したときに生かしていきたいです。



宮里 京汰 (14)

Keita Miyazato

石垣市立大浜中学校

今回のウチナージュニアスタディー事業の7日間は海外参加者との交流、沖縄の伝統や文化・自然や平和、移民・移住学習という貴重な体験ができました。

1日目は、海外参加者と仲良くなれるかが少し心配でしたが、海や太一さん達のように、日本語を話せる人がいて、すぐに仲良くなることができました。午後に行ったウェルカムパーティーでは、練習期間が2週間と言う短い間でしたが、ボランティアスタッフの方にも協力していただき、少し間違えはしてしまいましたが、ダイナミック琉球を踊ることができました。

2日目は、首里城に行ったり、マチグラー散策をして沖縄の文化に触れることができました。

3日目と4日目は自然学習で美ら海水族館やビーチ、東の沢トレッキングを行いました。中でも4日目のキャンプファイヤーは、1週間で最も楽しい時間になりました。

5日目は平和学習を行いました。平和記念資料館に行き、戦前から戦後までの歴史を習ったり、平和の礎では、ルアナさんの親族の方を探しました。その後ひめゆり平和祈念資料館に行きアニメ「ひめゆり」を見ました。

6日目は、ペルーから沖縄へ移住したアルベルト城間さんの話では、沖縄に最初来た時は言葉も通じなかったらしく、ポケットに常に辞典を入れていたみたいで、様々な苦難を乗り越え現在のような生活になったそうです。

7日目には修了式を行いました。修了式での1分間スピーチはつくることができなかったのですが、思ったことを話しました。その後のエイサー演舞で、一般のお客さんの前で踊りました。最後のエイサーで、ミスがほとんどなかったのととてもうれしかったです。



金城 陽汐 (16)

Hina Kinjo

沖縄県立向陽高等学校

ウチナージュニアスタディで一週間を過ごすことができました。はじめの1日目はとても緊張して友達ができるか不安でした。ですが、それと同時に楽しみにしていました。オリエンテーションでは多くの言語が飛び交う中、私はとても圧倒されていたのを覚えています。

日が続つにつれ、海外参加者の方々との会話も増え打ち解けることができました。日本語が通じなかった時英語での会話は少し緊張しましたが、耳を傾けてくださいました。また、初めて聞いたスペイン語の単語や発音も教えてくださいました。この経験から、英語の会話力の向上を目指さないといけないと感じました。また、スペイン語にも興味が出たので今後学んでいきたいです。

一番楽しかった思い出はつつじエコパークでの川トレッキングです。石につまずいて転んだときに言葉で支え合うだけでなく、手を差し伸べる優しさがあったて心が温くなりました。私もこのような思いやりのある優しい人になりたいと感じました。

6日目のワークショップでは5日間のまとめをしました。初日に立てた目標設定をもとに、目標がどれくらい達成できたのかグループで発表しました。また、別の視点から見た沖縄の良さに気づくことができました。それは、沖縄は海だけではなく、古くから人々が残してきた建物や街並、文化にもそれぞれの思いが詰まっているということです。

このウチナージュニアスタディを通して、世界のウチナアンチュとともに沖縄の伝統文化を繋いでいかなければならないと心から思いました。そのために、私たち一人一人が異文化理解をし、世界の人々と少しずつでも分かり合えるような人になりたいです。海外参加者の皆さんとは遠く離れてしまうけれど、今後も連絡を取り2年後の世界のウチナアンチュ大会でまた会いたいです。この1週間、スタッフのみなさん、参加者の皆さん本当にありがとうございました。



舩田 琉陽 (17)

Ryuhi Masuda

沖縄県立真和志高等学校

このUJSで得られた経験は、とても素晴らしいものだと思う。UJSとは、海外の同年代の学生と生活を共にしながら沖縄の歴史や文化、自然などを学習するプログラムである。私が今回このUJSで学べたことは、交流することの大切さである。

海外の方々と交流すると、言葉の違いや文化の違いなどといった問題がある。こういった問題を乗り越えるには、相手の国の文化を理解してあげることが必要不可欠であり、交流するうえで最も大切な部分である。私は、今回のUJSのボランティア希望者の壁を乗り越える難しさを身をもって痛感した。しかし、言葉が通じないからといって交流を避けるという行為はしてはならない。言葉が通じなくても、ボディランゲージ、ジェスチャーを駆使することにより相手と意思疎通することができ、相手と交流するが可能だということを学ぶことができた。

他に学べた事は、意見をみんなで共有することである。お互い、違う国で育ち文化も違うので考えや意見は人によってそれぞれ違う。このような様々な意見をみんなで共有する事は、自分の考えをより深めることができるし、自分が思いつかないような考えを発することができる。私はこのUJSを通して、意見を言うこと、共有することの大切さを学ぶことができた。このUJSで学んだことは、今後も生かしていきたいし、歴史や伝統文化を学ぶことの大切さをみんなに教えていきたいと思う。



前田 美海 (16)

Miu Maeda

沖縄県立那覇国際高等学校

緊張したオリエンテーションから始まった7日間。この7日間は本当にあっという間で多くの事を学んだ毎日でした。

1日目の自国紹介では、県人会で様々な活動を通して沖縄の文化や伝統を継承していることを知り、ウチナンチュのつながりをとても感じました。また、自分より沖縄の伝統を継承している海外参加者を見て自分ももっと沖縄のことに知って発信する側にならないといけないなと思いました。

初めは緊張して話せなかった自分もプログラムを通して海外参加者と仲良くなっていきたくさんの思い出を作ることができました。寝食を共に過ごした毎日は新鮮でも楽しかったです。また、私はこのプログラムを通して、外国語にますます興味を持つようになりました。プログラム中、様々な言語が飛び交う中で初めて英語以外の言語を話す人と出会い、多言語を知る楽しさもわかりました。一緒に過ごし、会話した時間が自分にとって最高の思い出です。

また、交流を深めただけではなく、首里城や博物館見学などでは沖縄の歴史を学ぶこともできました。ガイドさんがついて説明してくれたことで、今まで訪れた時より吸収することが多くたくさんの事を学ぶことができ学びの多い見学となりました。

平和学習では平和祈念資料館やひめゆりの塔を訪れ、改めて戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶことができました。海外参加者の先祖の方の名前が平和の礎に刻まれているのを見てルーツは沖縄にあると実感したのと同時に二度と戦争をしてはいけないという気持ちになりました。

このプログラムに参加した7日間にはすごく濃密で、この体験から得たものはとても多かったです。目標であった沖縄のことに知ることができ、友達も作ることができました。プログラムを終えてみて本当に参加して良かったと思っています。

私は将来、発展途上国支援の活動に参加してみたいと考えています。このプログラムで学んだことを忘れず、沖縄のことを発信しながら人の役に立てる人材になれるようがんばっていきたいと思います。



具志堅 光 (16)

Hikari Gushiken

沖縄県立那覇国際高等学校

私はこの研修で、沖縄の歴史、自然、文化や平和について新たに学ぶことができ感動しました。また個性豊かすぎる海外参加者や県内参加者と一緒に1週間過ごすことができ、今後もずっと友達として、ウチナンチュとしてつながっていける仲になり、本当に充実した1週間になりました。

歴史面での学びは、首里城で北殿や南殿と建物が分かっていると知れて、初めて琉球王国時代の生活様式を見ることができました。また、マチグワ―散策で戦前の家がまだ残っていて驚きました。そして、自然の面では、研修で最も楽しかった中の1つである川トレッキングで、川の中にも道にもお風呂にも虫がたくさんいて自然を感じることができました。また、トレッキング中に川の水が流れる音を聞いて、いつも飲んでいる水の恵みに感謝することができました。そして文化の面では、世界にはウチナンチュがたくさんいると言う事は知っていたけど、その国々で県人会があるということを初めて知りました。また、紅型体験では、色をつける作業が複雑でたくさんミスをしたけど、それもまた良い思い出になりました。もっと沖縄の文化を習って体験してみたいと思いました。そして平和の面では同世代のひめゆりの人たちが悲惨な体験をしていたと思うと悲しくなった。それと同時にもう二度と起こさないために、このような機会でも学ぶことができとても良かったです。また、平和祈念資料館の見学を終えて、目の前に広がっていた大きくて美しい湾を見て、平和だなと思いました。最後に、真由美の沖縄に対する印象として、沖縄には家族や友達が絆で繋がっていて何があっても戻れる場所がある。と言う事を聞いて改めて大切な友達ができたと感じました。



高良 成美 (17)

Narimi Takara

沖縄尚学高等学校

今回の事業に参加してとてもたくさんのことを学びました。事前学習や初日は海外参加者や県内参加者ともどこか他人行儀で仲良くなれるかなと不安でしたが、ボランティアの方々が用意してくれたアクティビティのおかげで少しずつ打ち解けてきて海外参加者とも話せるようになってきました。その時に驚いたのが様々な国によってイントネーションや発音が違って、驚きました。ルームメイトも海外参加者と一緒に、日本のアニメや洋楽、観光地について英語や日本語を駆使して教えあったり、たくさんお話をしたりして相手の国のことも知ることができ、日本と違う点を見つけ、これが異文化交流なのかと思いました。

平和学習のワークショップの時にグループのみんなで平和祈念資料館から何を思ったのか、また何が平和なのか、これからの平和についてどうしていくのかを話し合っ
てまとめることで、平和への目標がだんだんと明確になっていき、これからのその意識を変えていこうと思いました。

みんなの部屋でお菓子パーティーをしたりふざけ合ったり、恋バナをしたり、プログラム以外でもみんなと一緒にいて1週間と短い間でしたがみんなファミリーのようでとても濃い時間を過ごしました。私たちはたくさんの方から集まっていますが、2年後の世界のウチナーンチュ大会で会いたいと思います。



比嘉 柗太郎 (17)

Shutaro Higa

沖縄県立北谷高等学校

私の今事業での目標として私自身のウチナーネットワークの拡大を掲げ7日間過ごしてきました。2月に留学したハワイで言語の壁を感じた中、スペイン語ポルトガル語フランス語と耳にしたこともない言葉話す人達と仲を深められるかとても不安でした。ですが、日本語を片言でも話してくれる参加者や3年間自分で勉強して日本語を話している参加者もいて気軽に交流ができました。自分の住む国にいたら絶対に使わないはずの言語をここまで勉強できるというのは本当にすごいと感じました。きっと彼らは自分のルーツである沖縄に対しての探究心がここまで学びを深められる原動力になっているのかなと思いました。私も今事業でそんな彼らが自分達の国ではどんな活動を行っているのか興味を持ちました。高校卒業後は国際関係の大学に進学したいと考えているのでスペイン語やポルトガル語の勉強に励んで実際に現地の県人会の様子を体感したいという新たな目標もできました。

私自身のツアー中1番の思い出は最終日前夜、海外参加者と三線を弾いたことです。ペルーから参加したDanが私に余興で弾く三線を練習したいから貸して欲しいという話から始まり、気づけば2時間も1つの三線を私と海外参加者の4人で回しながら唄っていました。私は小学3年から三線を習っていますが、あの時間が今までで1番幸せで初めて三線を習っていて良かったと思いました。今後も私自身のアイデンティティーとして誇れるように、また彼らに会った時に成長した姿を見せられるように練習を頑張りたいと思います。海外参加者の中には趣味として楽しみながら沖縄の文化に触れている人もいれば、幼い頃から琉舞と祭り太鼓を習っている人もいました。同年代の世界のウチナーンチュが沖縄理解を深めていて、自分の住むこの沖縄という場所はなんでこんなに愛されているんだろうと感動しました。

今事業で言葉では言い表せない貴重な体験を家族のような素敵なメンバーで経験させていただけた事が本当に幸せです。令和元年度のウチナージュニアスタディ事業としての活動は残念ながら終了ですが、南米4カ国の県人会で開催されているようなニセター(青年)ツアーを今回の参加者で企画し交流が継続できるウチナージュニスタネットワークを創っていきます。県内海外参加者の大好きな家族へみんな大好きです。遅くても2年後の世界のウチナーンチュ大会で会いましょう！今事業に関わった全ての皆さんいっぺーにふえーでーびたん。



喜納 日向 (15)

Hinata Kina

沖縄県立中部農林高等学校

私はウチナージュニアスタディーで、学んだことや楽しかったこと、苦手なことなどがありました。

1日目、海外の皆さんと顔合わせ、とてもドキドキやワクワクが止まりませんでした。でも逆に不安な気にもなりました。そんな気持ちの中、1日目は、交流プログラムと移民・移住学習です。交流プログラムは、新聞紙のゲームがとても楽しかったです。移民移住学習の時は話を聞いて書くのがとても大変でした。2日目は首里城公園に行きました。母が首里城が好きで、よく行ったけど、つまらなかった、でも今回みんなと行った時はとても楽しかったです。伝統工芸体験は自分の不器用さが見られました。家に持って帰ったら、笑われました。那覇でシーサー探しでは、いろんな場所を回りました。私の家は田舎にあるので、とても那覇がすごく感じました。1番びっくりしたのは建物の中に車をしまっていたことです。都会は怖いです。3日目は美ら海水族館、ビーチに行きました。美ら海水族館ではバックヤードまで見ました。バックヤードは裏の世界です。冷蔵庫と冷凍庫を見ました。中はとても寒くて、10分そこにいると死ぬと思います。最後にオキちゃんショーを見ました。とてもかわいかったです。次にビーチに行きました。ビーチではみんなが楽しそうにされていて、自分まで楽しかったです。この日の夜から、みんな打ち解けました。4日目の川トレッキングは正直怖かったけど、泳ぐのが楽しかったです。交流プログラムとキャンプファイヤーは思い出の中で1番楽しかったです。5日目は平和祈念資料館では戦争の悲劇を見ました。私は平和学習で思った事は、世界でどっちが悪かったのかわかりませんでした。住民を巻き込み、殺す日本兵、差別で殺したアメリカ兵、私は今後この答えを自分で探そうと思いました。最終日、エイサーを踊りました。とても楽しいエイサーとなって良かったと思います。私は語彙力も、英語もしゃべれないのに皆さんはとても優しかったです。私はみんなと仲良くしようとしつこかったです。すいません。でもとても楽しい7日間でした。ありがとうございました。



雨瀬 ひかる (17)

Hikaru Amase

沖縄県立具志川商業高等学校

みんなと出会って1週間、私はたくさんのことを学びました。いろんな言語のありがとう、沖縄の伝統や文化。また、この事業に応募したときに目標にしていた、自分の良いところもを見つけることができました。最初は通訳がないと言葉が伝わらなくて話しかけるのに少しだけ勇気が必要でした。特にスペイン語圏は何を言っているか全くわからなくて、アンドレアさんなど、通訳がないと不安な位でした。だけど日数が経つうちに、言葉が伝わらなくても一緒にいるのが楽しくて、自分から話しかけたり積極的になれました。特に研修で印象に残っているのはエイサーです。私はエイサー経験がありませんでしたが、逆に海外参加者は県人会でエイサーをやっていて、全く踊れなかった私は少し恥ずかしくなりました。研修に参加した1番の理由として沖縄について学びたいという思いがありましたが、改めてそれを強く感じました。エイサーは、私にとって難しくて最初は少し嫌でしたが、しゅんか先生も毎日優しく丁寧に教えてくれて、みんなで練習する時間が大好きになりました。最終日みんなで踊ったエイサーはすごく楽しかったけど、演舞が終わったらみんなとの研修も終わってしまうんだなと思うと寂しくて悲しかったです。でもこのエイサーで、私たちは言葉や文化の違いを超えて1つになれた気がします。きっとそれぞれが自分の国へ帰ってもこの気持ちを忘れずに、ただの良い思い出ではなく、ウチナンチュとして誇りを持ってこれからにつなげていけると思います。私は研修に参加したことで、同世代の世界のウチナンチュとゆいまーの絆で結ばれ、沖縄のことを学ぶだけでなく自分自身成長できました。1週間はあっという間に過ぎてしまったけど今までの人生の中で最も濃ゆく、素晴らしい出会いや体験に溢れていました。この事業に関わった全ての人に感謝します。またウチナンチュ大会で大好きなみんなに再会できることを願っています。



永山 笑妃 (15)

Niina Nagayama

沖縄県立具志川高等学校

2019年の夏休み人生で初めての県費留学がありました。沖縄から世界に移民して行った方々を祖先にもつ、世界各国のウチナンチュ子弟達と生活を共にしながら、沖縄の歴史や文化を学びました。同世代の人達との交流を通して、初めて知ったこと、初めて学んだこと、今までの関心の低さに気づかされました。

実施期間は夏休み期間中の7日間でした。移民・移住学習では、沖縄県の移民・移住の歴史やウチナンチュ大会、世界のウチナンチュの日について学び、ウチナンチュのアイデンティティーを再認識しました。私を含め3人で沖縄についてのパワーポイントを作り、よりわかりやすいように、沖縄の県花、県鳥、県木などを紹介しました。ここで初めてパワーポイントというものを事前に作りました。写真などを活用しながら分かりやすいパワーポイントを作るのにはとても時間がかかり大変でした。しかし、発表が終わり多くの方々から拍手をもらった時はとても嬉しかったのを今でも覚えています。

1日目が終わると、多くの人とコミュニケーションをとりたかったのに、英語が分からないために上手くいかず、落ち込みましたが、同じ部屋になった方が三線をひいてくれて、私にこんな言葉を言いました。「言葉の壁ができて、心はいつもウチナーのまま、通じあっているんだよ」その言葉に救われました。

歴史学習では、沖縄の歴史的な史跡である首里城を巡り、沖縄の歴史と琉球王朝時代のロマンに触れる機会がありました。琉球王朝時代から沖縄は中継ぎ貿易などを通して多くの人や文化に触れていたと知り驚きとともに関心を持ちました。その後ボランティアの先輩たちと合流して文化学習・マチグワァー散策をしました。そこでは、沖縄の伝統工芸品である紅型を体験しました。初めての紅型で難しかったですが、みんな教え合いながら完成した一品は今でも忘れられない思い出のものになりました。

今回のプログラムの中で1番考えさせられ、意見を多く交したのは平和学習です。沖縄の戦跡等を巡り、戦争の歴史を学ぶとともに、平和について考えるというものです。平和公園やひめゆり学徒隊などを訪れ、肌で戦争の恐ろしさや、大変さを感じました。沖縄戦についてグループでまとめる中で、国によって考え方や政策が異なるため、まとめるのにはとても苦労しましたが、戦争は二度とあってはならないものだという考え方は、皆そろって同じでした。気がつけば、残り2日でした。

最後の講義では、アルベルト城間さんが今までの経験や歌に込められた思いなどを語ってくれました。また、ガンバッテヤンドを生で聞けてとても嬉しかったです。ホテルに帰ると、部屋で最後のパーティーをしました。初めの頃は同じ言語同士の人達だけしかたまり関わりが持てなかったけど、最後のパーティーでは、言葉の壁を乗り越えて皆で歌やダンス、ゲームをして楽しみました。

いよいよ最終日、皆で教え合い、頑張ったエイサー練習の成果をリウボウ前の県民広場で披露しました。多くのボランティアの先輩方やウチナージュニアスタディーを支えてくださった方々に感謝の気持ちを伝えると共に、多くの観光客に沖縄の素晴らしいエイサーを披露しました。全てのスケジュールを終えると成功の嬉しさと、ずっと一緒にいたいという気持ちから皆涙が止まりませんでした。最高の仲間・先輩・そして多くの方々に出会えてよかったと思いました。ウチナージュニアスタディーが終わった今でも、頻繁に連絡を取り合っています。今自分が地元である沖縄にできることはなにか、日々考えながら、次世代に沖縄の素晴らしさを伝える発信源になれるように頑張りたいです。



松根 乙希 (17)

Otono Matsune

沖縄県立具志川高等学校

私がこのウチナージュニアスタディー事業に参加しようとしたきっかけは友達からの誘いでした。私は海外の人と交流をしたことがなく、ウチナージュニアスタディーが始まる前から毎日のように緊張していました。仲良くなれるかな。面接で言いたい自分の国際的な視野を広げられるかな。と毎日思っていました。初日はみんなまだ緊張していて、目を合わせるのが精一杯だったけど、ボランティアの皆さんによる交流プログラムを通して少しずつ緊張も解けていきました。ルームメイトから少しずつ少しずつコミュニケーションの幅を広げていき、みんなと話をすることもできました。4日目の東の沢トレッキングでは、川に沿って歩いたりしました。この時に言葉ではなく「手を差し伸べる」というコミュニケーションの仕方があることを知りました。「家に帰りたい」が口癖の私に少しずつでも海外に行ったみたいと言う気持ちが芽生えました。私の中の国際的な視野がこの研修でとても広がりました。

一次審査の作文では「沖縄の伝統エイサー」を世界のウチナーンチュに伝えたい。と書きました。今回の7日間で伝統エイサーとは少し違った祭り太鼓をみんなですることができました。しかし伝統エイサーを海外参加者の子に伝える機会はあまりなく、自分自身もモヤモヤが残っていました。しかし研修が終わった次の日にほとんどの人が一万人エイサーを見に来ていて、その時に少し伝統エイサーも見れたので、少しは伝統エイサーの凄さを海外参加者に伝えられたかなと感じました。癖の強い県内参加者とフレンドリーでとても面白い海外参加者と過ごした1週間は私の中でとても大きな思い出です。

ありがとうございました。

みんな大好きです。



高橋 香穂 (16)

Kaho Takahashi

昭和薬科大学附属高等学校

この研修に参加して、私には新しい目標が出来ました。平和学習で凄惨な過去を、移民学習では過去の人々が持っていた希望を、文化・伝統学習では伝統を受け継ぐための努力を、歴史学習では昔の人々の知恵を、自然学習では守り続けるべき沖縄の美しさを目の当たりにしました。私が特に楽しかったと思うのはリバートレッキングやビーチアクティビティなどの自然学習で、みんなでびしょ濡れになったり飛び込みをして、普段あまり触れることの無い沖縄の自然に触れることが出来て楽しかったです。また、キャンプファイヤーはボランティアの方々が用意してくれたゲームやダンスのおかげでチームだけではなく、参加者全員の絆を深められたことが嬉しかったです。最後のエイサーでは、みんながひとつとなってパフォーマンスを成功させることが出来ました。この時、国や言葉が違って、思い、気持ちが通じあっていればできないことは無いと知りました。それを知った瞬間、沖縄にはまだまだたくさんの可能性があってそれを海外に発信して行きたいと思うようになりました。沖縄を海外にどう発信し、自身のウチナーネットワークをどう拡大させていくかが、この研修後にできた私の目標です。沖縄について学んだだけではなく、海外へ雄飛した移民たちが移り住んだ国々の文化も知ることが出来ました。ブラジルやペルー、ボリビア、アルゼンチンなどの南米は沖縄の真反対だし、ニューカレドニアという言葉も聞くことは滅多になく、それについて知る機会はこれまでは教科書のページを開くしかありませんでした。しかし、実際にそこに住む参加者から色々な話を聞き、文化もまるで違う国へ移り住んだ移民の方々は、あっぱれの一言に尽きると思います。私がこのプログラムに参加していなければ、知り合う可能性はゼロに等しかった仲間たちは、このプログラムを通して一生の仲間、家族になりました。元々会う可能性がゼロに等しかった仲間たちと会えたなら、絶対また次だって会える気がします。その時まで、沖縄をどう世界に発信していくか、自身のウチナーネットワークをどう拡大させるかをゴールに日々を過ごしていこうと思います。最後に、この事業に関わってくれた全ての方々に感謝を述べたいです。素敵な一週間を提供してくださり、ありがとうございました。



高原 小夏 (16)

Konatsu Takahara

昭和薬科大学附属高等学校

私は、今回沖縄のことをもっと深く知りたいという思いでウチナージュニアスタディーに参加しました。普段海外に住んでいる世界のウチナンチュ達と一緒に、1週間学ぶということで、いろいろな視点から沖縄を見つめ直すことができるのではないかと思ったからです。さらに、その1週間を一緒に過ごすことで、たくさんの交流をすることも目標の一つでした。

実際にプログラムが始まるまで、私は不安でいっぱいでした。恐らく日本語が分からないだろう海外参加者達とどうコミュニケーションをとればいいのか。1週間という長期間ホームシックになったりしないだろうか。しかし、プログラムが始まるとそんな心配も無用だったと気づきました。海外の人の中には、日本語を勉強している人もいて、またみんな私の拙い英語にも耳を傾けてくれたからです。スペイン語やポルトガル語では、こう言うよという風にも教えてくれました。そして、そんな楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

私が1番印象に残っているのは、平和学習で訪れた平和祈念資料館でのことです。案内の方のお話を聞きながら、展示されている資料を見学していました。話の途中で、海外から来た参加者が隣で泣き出してしまったのです。あとで聞くと、初めて聞いた話でこんな凄惨な現場だったのかと驚いたと教えてくれました。それを見て、私も一緒に泣いてしまいました。学校の平和学習では、悲しいと思いはしたけれども、こんなに涙を流したことはありませんでした。ひめゆりの塔にも行き、同世代ということもあり、さらに涙が止まりませんでした。

この日の体験を通して、知識として持っているものでも、改めて学ぶことで、また違うものを得られるのかもしれないと考えました。実際に、この歳になって学ぶことで、ひめゆり学徒隊の話がより近く感じ、戦争の恐ろしさを痛感しました。また、一緒に学ぶ人が違えば、自身が感じるものもまた変わることを経験しました。ついでに言えば、海外に住んでいるみんなが、沖縄で起きたことに涙を流してくれていることに感動もしました。

そして、その後のワークショップで話し合いをした際には、新たな考えにたくさん触れることができました。お互い育ってきた環境や、受けてきた教育も異なるので、いい刺激をもらうことができましたと思います。また、みんなに話を聞くと、待つという姿勢でいたように思います。時に、相手は予想もしていなかった考えを話してくれます。その時、今回の参加者達はみな、相手の真意を汲み取ろうと一生懸命話を聞いていました。話が終わると、どうして?なぜ?と聞き、相手を理解しようと努めるのです。このような姿勢もワークショップを充実させる一助となったと思います。

このプログラムを通して、私は1週間とは信じられないほど多くの学びを得ることができました。また、良き友人となってくれた海外参加者、そしてもちろん県内の参加者のみんなには感謝してもしきれません。この文章に書ききれないほど、多くのものを私にあたえてくれました。

最後に、このプログラムを運営して下さったスタッフの皆様、サポートして下さった看護師の方や通訳の皆様、海外参加者のホームステイ先の皆様、そして何よりウチナージュニアスタディー2019メンバーのみんな、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



阿武 真帆 (20)

Maho Anno

沖縄国際大学

今回、私は青年リーダーとしてこのプログラムに参加しました。2015年に高校2年生で参加して以来、毎年ボランティアをしていましたが、参加者・ボランティアの視点だけではなく、このプログラムに関して様々な視点から見てみたいという思いと、参加したときに感じた自分の見ている世界が180度変わることに、相手を知ることで見えてくる沖縄の素晴らしさと言うのを参加者に感じてほしいという思いから青年リーダーとしての参加を決めました。

参加してみて、1週間は長いようで短くて、毎日が充実するほど内容の濃い日々でした。県内参加者16名、海外参加者15名リーダーとして海外青年リーダーと引っ張っていくに当たってどうあるべきかと悩み、模索しながら過ごした1週間でした。

1日目は、初の顔合わせで、みんな緊張していましたが、移民学習、交流プログラムやウェルカムパーティーでは少しですが打ち解けあっていて、これからの日々を楽しみに感じていました。2日目は、首里城公園を散策し、バンボッシュで昼食を食べ、紅型体験、マチグラー散策を通して意見を共有していく中で共通点、相違点を発見しながらコミュニケーションをとっていきみんなの中で、自分とは異なる視点・考え方について凄く考えさせられるものがありました。3日目は、美ら海水族館へ行き、水族館のバックヤードで沖縄の海の生態についてたくさんを学び、イルカショーを見学しました。その後、海へ行き、バナナボートに乗り、みんなでひたすら楽しみました。4日目は、川トレッキング、バーベキュー、キャンプファイヤーを通して自分たちの交流をメインに一人ひとりが会話しようとしている姿がたくさん見られ、いろんな人と協力することを学びました。5日目は、1日を通して沖縄戦についての平和学習で、私は、参加できませんでしたが、バスの中での会話やその後のホテルでの会話がすごく平和についての意見を交わして1つの題材で価値観の共有を行いました。6日目は、1日を通して1週間を振り返り、自分の達成度を図り、今後どうしていくかのビジョンをみんなで共有しながら行うことで、一人一人がこれからのことを考えていました。また、アルベルト城間さんの講話を聞いたことで、移民、移住の大変さ沖縄の姿、今後の自分たちにできることについて講話を通して学び、考えさせられました。7日目は、1週間の終わりとしてのセレモニー、今までみんなで協力し、練習を重ねてきたエイサーの披露、さよならパーティーでは海外組の各国による様々な出し物を通して異文化交流、異文化理解につながるものを見学しました。

1週間、全体を通して学びもあり、考えさせられること、感じる事といったたくさんを身体の中で感じ取りました。内容だけではなく、今までの自分、今後の自分についてすごく考えさせられました。リーダーとして参加しても、まだまだ学習する事はたくさんありました。私の思いが皆に届いたかは分かりませんが、このプログラムを通して、自分の中で少しでも変化があったことを感じていたらすごく嬉しいです。最高の家族に宝物に出逢えました。関係者の皆さん、参加者、海外青年リーダーありがとうございました。



ロビンソン れいみ ジェシカ (15)

Reimi Jessica Robinson

アメリカ合衆国

アトランタ沖縄県人会

今年のウチナージュニアスタディのメンバーとして参加できたことは、一生忘れな
い思い出となりました。この経験ができたことに本当に感謝しています。初日はとて
も緊張していてシャイでしたが、このプログラムの間は、頑張って積極的になるよう
に励みました。毎日、たくさんみんなと話すようにしました。そしてすぐにみんなと
馴染むことができました。

ここで新しいこと、今まで全く知らなかったこともたくさんを学びました。
色々な感情ができました。首里城にはとても感動しました。中国からのデザインや、日
本と中国の違いを龍で表現していたり、細かいところまでそれぞれの国の違いを表し
ているところもとても素敵でした。平和祈念資料館では、とても悲しかったです。ほ
とんどが知らないことで、すべてが新鮮でした。色々な話を聞いて、心が折れた気持
ちになりとてもショックでした。トレッキングの時や、外でのエイサー練習の時に、
沖縄の自然に触れることができ、とても美しかったです。きれいな星空の下でエイサー
のステップを習っていた時間はとても幸せな瞬間でした。あの時間は心から幸せだっ
たし、とても平和な気持ちになりました。

このプログラムのなかでも、キャンプファイヤーが一番好きな思い出です。キャン
プファイヤーで、今までにないぐらいに親くなりました。また、私たちの絆も強くな
りました。どのチームにいたとしても、全員がお互いを応援しあい、とても楽しん
でいたし盛り上がりました。みんなともっと話したり、応援し合ったり、一緒に楽し
むことでとても素晴らしい思い出になりました。人生のなかで一番の思い出の一つに
なりました。

最終日には、みんなの家族の前でのスピーチとパフォーマンスにとっても緊張してい
ました。最後で皆で行ったエイサーでは、これ以上ないくらい幸せを感じました。
帰ってからもエイサーをするのが楽しみです。とても感情的になってしまい、泣かず
にはいられません。最後に、みんなの代表で、英語での感謝のあいさつをした
時には、これがグループとして行う最後のあいさつだと思うと、とても悲しい気持ち
になりました。しかし、みんなとこのような美しい思い出を作れたこと、この経験が
できたことを今までにないぐらいに感謝しています。また、みんなに出会えたこと、
そしてこんなにも仲良くなれたことにとってもありがたく思います。参加者のみんな、
スタッフの皆さん、ボランティアの方々、すべてが大好きです。本当にありがとうご
ざいました。みんなをとっても愛しています。また会いましょう！



マシューズ 恵美子 メーガン (18)

Megan Emiko Matthews

アメリカ合衆国

アラバマ沖縄県人会

このプログラムは本当に素晴らしい経験でした。参加前は、内容を理解したり、友達を作ったり、コミュニケーションをとることにとっても苦労すると思っていました。しかし、私は間違っていました。ウチナンチュというコネクションのおかげで友達をすぐに作ることができました。沖縄の歴史についてたくさん学びました。

素敵な通訳のりょうかとしゅんか、また自分の日本語の知識に感謝したいと思います。このプログラムで一度に、悲しさ、怒りを感じ、また力を与えられたような気持ちになりました。沖縄はとても強いです。

このプログラムに参加する前は、沖縄は私の家族が住む美しい島だと思っていましたが、今ではそれ以上のものがあるとわかりました。沖縄は、悲惨な戦争の一部、痛みであり、さまざまなことを乗り越えて強くなった島だということ。沖縄がもつ平和のメッセージに誇りを感じます。

エイサーでは、調整がうまくできず苦労することもありましたが、とても楽しみました。アラバマでも続けられたらいいなと思っていたのですが、エイサー団体は一番近くても、4時間以上かかる場所にあります。たくさん失敗したけど、一曲を終わらせられた満足感は一生涯忘れません。エイサーは驚くほど素晴らしいもので、エイサーの練習をできたことをとても幸運に思います。これからももっとできたらなと思います。

このウチナージュニアスタディは人生をかえる経験でした。一生涯の友達を作ることができたし、愛する沖縄についてたくさん学びました。このプログラムはとても斬新であり、ウチナンチュたちや、沖縄に興味のある人たちに強く勧めたいと思います。本当にこの機会に感謝します。一つだけ不満だったのは、もっと時間があつたらよかったなと思います。ありがとうございました。



安次富 ステファニー 美代 (17)

Stephanie Miyo Ajifu

アメリカ合衆国

北米沖縄県人会

たった1週間で、33人もの見知らぬ人たちとこんなにも仲良くなって、彼らのことがこんなに恋しくなるとは想像もしていませんでした。気を遣わずに自分をさらけ出すのには数日かかりましたが、私の人生の中で最高の一週間の一つとなりました。もっと時間があつたらなあとも思いました。初日はみんなのような人に会うのか、どんなプログラムに参加するのかなどが気になって、一番気まずいものになるとわかっていましたが、正直にいうと一番辛いものでした。しかし、首里城や次の日の美ら海水族館やビーチ、一番最高だったのが、トレッキングでした。すべてのアクティビティやイベントは、私たちを近づけてくれたし、一生忘れることのできないたくさんの思い出、友情、家族を作ることができました。とても短い期間でしたが、この機会を与えてくださったことに感謝し、このウチナンチュとしてのスピリットまた、世界のウチナンチュたちと愛を共有できたことを光栄に思います。ウチナンチュとしてのプライド、自分がウチナンチュとして誇りに思い、このルーツ、家族という贈り物に感謝してもしきれません。沖縄を心から愛しています。また、これからも美しい沖縄を自分の地元だけじゃなく、世界中に広めていきたいと思います。沖縄の文化がなくなってしまうないように、また、これから参加する次世代の方々が、私が今感じている気持ちがわかるように願っています。そして、次世代に伝え続けていきたいです。このプログラムは素晴らしいです。このプログラムを作ってくださったスタッフの皆さん、ボランティアのみなさんには感謝しきれません。本当にありがとうございました。沖縄にまたかえって来るのが待ちきれません。



ヴァネッサ 芽生 ホーメン (16)

Vanessa Mei Homman

アメリカ合衆国

ワシントンDC沖縄会

沖縄のことを学び過ごしたこの一週間は最高なものでした。沖縄のことを学んだり、新しい人々に出会うこともできました。このプログラムでできた絆が私の一番の思い出です。沖縄に来ることができてとても嬉しかったし、この機会に感謝しています。

この一週間で行った全部のアクティビティがとても楽しかったです。首里城がこのプログラム中に訪れた場所中で一番魅力的な場所でした。デザインとても興味深かったです。川トレッキングは世界一でした。川の中を歩きながら、植物や虫を見たりしたことや、滝壺や滝はとても素晴らしかったです。また、滝壺に飛び込んだのはとても楽しかったです。とても冒険的で、面白かったです。ビーチアクティビティや、透き通るような海のきれいさを楽しむことができました。ヤドカリがとてもかわいかったです。またバナナボートもとても楽しかったです。エコパークもとてもよかったです。やはり、一番はメンバーのことが恋しくなります。みんなはこのプログラムをとても思い出深いものにしてくれました。みんなと離れたくないなあとも思いました。みんなとお別れをするはとても悲しかったです。また、すべてのボランティアの方々やスタッフの皆さんの素晴らしいお仕事に感謝しています。彼らがいなければこのプログラムは実現しませんでした。また、通訳の方々にも感謝しています。彼女たちがいなければ、このプログラムの間、言葉一つも理解できなかったと思います。

このプログラムで訪れたすべての場所はとても素晴らしかったです。平和祈念資料館が一番興味深かったです。ひめゆり平和祈念資料館もとても素晴らしかったです。私と同じ年の高校生の人たちがどのように沖縄戦で戦ったか、世界第二次大戦がどれだけひどかったかを知りました。水族館は今まで行った水族館で一番すごいものでした。ジンベイザメとマンタがとてもかわいかったし、エサやりを見れたこともとてもよかったです。沖縄で経験できたことは最高でした。家に帰りたくないとも思うほどでした。県人会のみんなにこのプログラムに参加することをすすめていきます。沖縄やウチナージュニアスタディプログラムがとても恋しくなります。言葉にできないくらいこの経験に感謝しています。



レイファイヴ カーナー 本英 フランシス (14)

Connor Honei Francis Lefave

カナダ

トロント球陽会

このプログラムは僕にたくさんのチャンスを与えてくれました。違う国から来たいろいろな人と友達になることができたし、平和祈念資料館に行くこともできたし、いろいろなご飯にもさまざまなアクティビティにも挑戦できました。

このプログラムはとても楽しいものでしたが、最高の友達と過ごせたことでもっと素晴らしいものになりました。本当にここでできた友達に会えなくなるのは寂しくなりますが、思い出はずっと忘れません。

このプログラムに選ばれて参加することができてとてもうれしく思います。カナダでみんなにここでの経験を伝えるのが待ち遠しいです。僕がここに来られたように、県人会のみんなも自分たちのプログラム参加への道を見つけましょう。



ラマルファ 真由美 ベレン (18)

Mayumi Belen Lamalfa

アルゼンチン共和国

在亜沖縄県人連合会

どこから始めたらよいのだろうか？伝えたいことがたくさんあります。たくさんの思い出、友情、新しいこと。UJSは私にとってユニークな体験でした。

私は素晴らしい時間を過ごすだろうと確信していましたが、それは私の期待を超えていました。

初日から最終日まで、豊かな自然から平和の重要性、文化、美しい人々まで、私たちが行うすべての活動で沖縄について多くのことを学びました。毎日新しい発見がありました。どういうわけか、私がずっと望んでいたものだったからです。最もエキサイティングな日は5日目で、私にとっては最後の日でした。5日目に訪れた場所、糸満はとても特別な場所でした。今まで魂を感じたことはなく、衝撃的なことでしたが、子供が私の手を取りました。別れを告げると私に微笑み、少し落ち着きました。最終日は、私たちがお互いに再び会うつもりはないようでした。面白いのは、翌日、私たちの何人かはパレードで再び会ったことです。休憩中に発言して言いたかったことは、プログラムを要約できるとすれば、イチャリバチョーデーであり、そしてみんなに感謝です。誰もがとてもフレンドリーで親切でした。UJSに不満はありませんでした。また次の参加者たちに同行しボランティアまたはリーダーとして再び参加したいと思っています。

一番楽しかったのは、東村に行った時、東の沢のアクティビティ、そしてビーチでした。こんな美しいビーチを見たことはありませんでした。沖縄は本当に千回戻りたくなるくらい素晴らしい場所です。私は皆、私の多くの友人、スタッフ、翻訳者を明らかに私の親戚も含め懐かしく思うでしょう。私はまた戻ってくると確信しています。あらためて感謝いたします。この経験を体験する一員にしてくれてありがとう。私は非常に良い人に会い、ウチナネットワークを拡大し続けるのに役立つ多くのことを学びました。

もっとウチナンチュになるために努力をします。沖縄と呼ばれるこの美しい場所を知りたいし、また来たい。すべての参加者達が私が体験した素晴らしい日々を過ごしました。ありがとうございました。

最適な言葉はイッパーニフェーデービル、オブリガーダ、サンキュー、メルシーボクー



宮里 明理 (18)

Akari Miyasato

アルゼンチン共和国

在亜沖縄県人連合会

「ウチナージュニアスタディ」に参加したことは、あらゆる面で豊かな経験でした。私は決して忘れないでしょう。

このプログラムでは、私の目標を達成しました。私の故郷、おじいとおばあが育った土地を訪ねることができました。またこれからもLINEやインスタグラムを使って連絡を取り合える友達たちができました。交流の日々の中でたくさんのことを学びました。私たちは自然に満ちた美しい場所や美しい場所を訪れました。また、悲痛な歴史や悲しみの場所にも行きました。

私は今、「平和」の意味が非常に重要なことも学びました。ペルーの歌手アルベルト城間は、講演の中で「平和は戦争のないところにあるだけでなく、平和を分かち合い、伝えることが大切」と言っていました。ホームステイ先のケイコさんとユキオさんに感謝しています。彼らは可能な限りいろいろな場所に連れて行ってくれました。また、クラウディア新垣さんと彼女の家族には沖縄にいる間、付き添い、助けてくれました。

そして通訳の方々、サポートスタッフ、看護師、コーディネーター、ディレクターやその他の人々本当にありがとうございました。あなた方の気持ちの一部を参加者たちが持っていきます。

今は、ウチナーは私が愛している土地であり、家族や友人と再会するためにまた戻ってきたいと思います。2021年のウチナーンチュ大会に参加したいと思っています。



与那嶺 改原 ニコラス ショウゴ (16)

Nicolas Shogo Yonamine Kaihara

ブラジル連邦共和国

カンポグランデ沖縄県人会

初日、私は同じ言語を使わない知らない人が自分の周りになると変な感じがして、とても緊張していました。偶然にもプログラム前からブラジル、ペルー、アルゼンチン、メキシコ、ボリビアの参加者たちと話していたので安心しました。結構、皆が話に来てくれたので仲良くなりやすいと思いました。

私は各県人会の紹介がとても面白いと思いました。主に各国の文化とウチナーンチュ文化が混ざっているからです。また、オーストラリアでは新しく立ち上げられた県人会だと知りました。そして、アイスブレイクでは私はまだ緊張しており遠慮していました。海外青年リーダーの太一と部屋が一緒だったので、緊張から解放されました。

2日目は首里城公園見学で素晴らしい首里城や建造物を見ながら、琉球王国と中国の関係が学べました。午後の紅型の工芸体験が楽しかったです。特にメーガンとダンの紅型を見て思ったが、皆すごく綺麗な紅型を完成させていて、私の紅型はあまり綺麗に完成できなかったのが残念でした。那覇市のマチグー散策で他の参加者に積極的に声をかけることが出来たので皆とたくさん話しが出来るようになりました。しかし、私に気になったことは、私は写真に入るのが恥ずかしくて、邪魔になってるかもしれないと思い、あまり写りませんでした。

3日目は、美ら海水族館に行きました。私はホストファミリーと前に行ったことはありますが、見学の時間がもっと欲しかったです。でもバックヤードで鮫に餌あげの見学も出来てとても面白いと思いました。また、最高プログラムがありました。ビーチアクティビティで話したことのない参加者と話しが出来ました。それと凄い貝も取れました。東村は、とても綺麗で歩きやすい場所でしたが結構暑かったことを覚えます。

4日目もまた最高なプログラムがあり、川トレッキングをしました。参加者全員が川トレッキングを楽しんでいました。私には参加者とコミュニケーションをとる良い機会でした。カイとカーナーとメーガンと話してたので私にとって良い英会話が出来ました。面白いのは同時に色々な言語があり、自分の頭がおかしくなりました。会話中、誰も気づかなくて言語が代わってしまったり、ポルトガル語を忘れてしまったりしました。夕方にはバーベキューが行われて、主に県内参加者たちに声をかけることが出来ました。私は日本語が上手くないですが、楽しかったです。例えば、言われたことを理解が出来なくて、県内参加者たちも私の言っていることが理解出来なくても面白かったです。その後はゲームやキャンプファイアーで沢山交流が出来て、自分の一番好きなプログラムになりました。ボランティアの皆さんに感謝してます。南米参加者たちが沢山写真撮っていましたが、残念ながらまた写真にあまり写れなかったから寂しいと思いました。でも大丈夫です。

5日目は結構大変でした。悲惨な戦争写真を見たりしました。戦争のせいで、色々なことが同世代の子たちに被害が起きると知って、とても悲しいと思いました。でも、平和の礎で見学が出来て、祖父の名護市の真喜屋という名前を見て良かったです。

6日目は正直に言うと疲れていて面白くなかったです。ずっと同じ部屋でいろんなワークショップをして、最後にとっても興味深い質問を聞かれてたんですが、疲れていたため考えることが出来ませんでした。

最終日、私はプログラム中に思わなかった悲しさを感じました。皆に会う機会がもうないので悲しくなりました。涙をこらえていたからなのか、暑さからなのか分かりませんが、私はいろいろなことに集中することが出来ませんでした。やっと沢山写真に写れて、とても嬉しかったです。前に私は写真に入る事が出来なくて心配でした。参加者みんなに感謝です。この一週間は間違いなく、今までの生涯で最高な一週間でした。この喜びの気持ちは、今後生きていく中でまた経験できるかどうか分かりません。本当に心から感謝します。



天願 ルアナ (18)

Luana Tengan

ブラジル連邦共和国

ブラジル沖縄県人会

本日、私は成果と夢を叶えた気持ちでいっぱいです。プログラムはとてもハードで、いろんな活動、見学やワークショップ、アイスブレイク、講演なども聞きました。そして、沖縄の美しさと多彩な文化、歴史など素晴らしい経験が出来ました。

家庭内では二世達が沖縄の文化に興味がなく、何も活動をしませんでした。三世達が一世達のことを助けてます。私は三線とエイサーを習っており、琉舞も経験したことがあります。その活動の中で教えてくれる人が沢山いて、ルーツの大切さと沖縄で体験をするという大切さを理解しました。

プログラムについて言語の違いで県内参加者とのコミュニケーションをとることが難しかったけど、ただ、南米のニーセーターツアーでも一緒だった参加者と、さらに仲良くなりました。プログラム中は言語が4つあり、最初は皆話せる人だけに声をかけていました。

私には移住・移民の学習が特に大事であり、自分たちのテーマについての意見がもっと広げたので、考えてきたこともまとめました。そして、ニーセーターツアーの質問も沢山聞かれて、皆は何もあまり分からなくて、南米国だけで沖縄が主題の交流プログラムがあると知って驚かれました。



玉寄 宮城 ダン (19)

Dan Tamayoshi Miyagui

ペルー共和国

ペルー沖縄県人会

最初は奨学生に選ばれる前に、申請する予定はありませんでしたが、私はペルーの沖縄県人会の積極的なメンバーではありません、活動に参加しませんでした。私は選ばれるに値しないと思いました。しかし、奨学生の目標は、ウチナンチュ文化を広め、維持することです。私が参加した理由は、私のルーツについて学ぶためでした。もちろんペルーでもできますが同じではありません。今回、経験したことを比較すると、とても違うことがわかります。

プログラムの初日、私たちが来た理由について考えた時、私の動機が変わりました。今私は他の人のルーツについても学ぶよう動機付けたいと思っています。それはウチナンチュになるということです。

私たちの若いグループは良い活動をしました。世代は変化をしていくので、より多くの人々が彼らのウチナンチュの側面について学びたいと思えるようにしたいです。

到着した時から驚くことばかりでした。ここのすべてがとても美しく、文化は尊重され、人々は友好的です。

毎日多くを学びましたが、私はまだ見ることがたくさんあります。プログラム中に私が作ることができた友人はすばらしく、とても楽しかったです。

私はコミュニケーションが大きな障害になると思っていましたが、英語と通訳者によってストレスになることはありませんでした。

エイサーは私が数年間練習していなかったもので、パレットでのプレゼンテーションはとてもいい経験でした。送別会は最高でした。戻ったときに学んだことをすべて広めるのが待ちきれません。旅行全体がどれほど素晴らしいかを皆に伝えたいと思います。そして、近いうちにリーダーとして戻ってきたいと思っています。



伊芸 ゲーラ 楓 ミラグロス (16)

Kaede Milagros Igue Guerra

ペルー共和国

ペルー沖縄県人会

どこから始めればいいのか分かりませんが、この旅行中、私は非常に短い時間で多くのことを経験しました。しかし、このウチナジュニアスタディツアーへの参加を現実のものとしてくださったすべての方々に感謝します。彼らのおかげで、私たちはウチナンチュのアイデンティティを探求し、沖縄に直接出会うことができました。（外国人の場合は家族も）

文化、歴史、自然、平和について学ぶだけでなく、世界中で友達を作り、ウチナネットワークをさらに拡大するプログラム中の時間はとてもとても短く感じた、気が付いた時にはもう最終日だった。とても厳しいスケジュールでしたが、毎秒ごとに価値がありました。私たちは多くの重要な場所に行きましたが、友人と一緒に行ったので2倍楽しかったです。起きたり、寝たり、食べたりする日常の活動でさえとても楽しいものになりました。「オフレコ」のお話をしたり、たくさんの思い出があります。私に少し不満を残した唯一のことは、私たちがあまり自由な時間を持っていなかったことです。（私はその日の詳細を書いたり、家族とコミュニケーションをとったり、友達とふざけたりもう少ししたかった）そしてすべての場所にとっても速く連れていきたくさんの写真を撮ることもできなかつた。でも訪問や活動の量から理解できます。

最初は、異なる言語でコミュニケーションをとることが少し難しいし、自信がない人もいましたが、たぶん、彼らは最初の数日間のプログラムでより多くの統合活動が助けになりました。しかし、今では問題ではありません。プログラムの最終段階では、私たち全員が兄弟のように感じたと確信しています。世界のどこかでいつかまた会える兄弟。私たちは一緒に歩いて、一緒に食べて、遊んで、踊って、転んで、泣いて、スタッフに隠れておかしパーティーをしました（ゴメン）各国について少し学ぶことができました。これらすべてのものは、これから私たちの心に記録され、私たちは常に愛をもって思い出します。

また、私たちが生きて学んだことは、私たちを人やウチナンチュとして豊かにし、家や国に戻ったときに非常に役立つと確信しています。県人会をさらに支援し、ウチナーネットワークを育てることが出来ます。おそらく、ある時点でこのプログラムを思い出し、時間を戻したいと思うでしょう。

しかし、私たちはその同じ幸せを新しい世代に伝えることができます。私たちのおじいとおばあと同じように私たちの経験とウチナンチュの心を伝え時間の経過にも関わらず守られ、沖縄は誰もが区別なく住むことができる場所だと多くの人が気づくように主催者、リーダー、通訳者に、このドアを開いてくれただけでなく、友人や家族のように私たちをサポートしてくれてありがとう、いつも沖縄を訪れることを楽しみにしています。

※イPPERニフェデービル

※ありがとうございました

※ムーチャスグラシアス

※オブリガード

※サンキューベリマッチ

※メルシーボクー



宮城 幸子 (17)

Sachiko Miyagi

ボリビア多民族国

ボリビア沖縄県人会

皆さんと一緒に感じたこの事をすべて表現する方法がわかりません。日本語と英語を完全に話さずに、皆さんと一緒にいることができました。忘れられない経験でしたが、最も重要なことは、私たち全員がウチナンチュであるということです。そして、それは素晴らしいことであり、さらに学ぶことができ、またこの文化を継承するために何かをすることができます。

私の祖父のことを少ししか知りませんでした。少しずつ学んでいくにつれ本当に私たちの祖先たちはとても勇敢であったということがわかりました。大変な局面に耐え、前向きに進んでいきました。彼らはこの文化を継承してきました。このことから私たちはしっかり、そして、それぞれが顔を上げ意識しないといけないと思っています。

このプログラムでたくさんのことを学びました。継続するためにそして、まだ知らないウチナンチュ達に伝えたいと思っています。そして最後にとっても素晴らしい体験でした。みんなのことが大好きです。



バルガス 前田 サライ 正美 (19)

Sarai Masami Vargas Maeda

メキシコ合衆国

メキシコ沖縄県人会

プログラム中はとても楽しみ、知らなかった沖縄をたくさん学びました。ホームステイのおかげで、沖縄の人々の日常生活について学ぶことができました。（少なくとも大宜味の町から）伝統的な食べ物を試し、また自然の美しさを味わうことができました。たくさんの言葉を教えてくれて、日本語でしか話せない叔母のおかげで、特定の言葉の意味についてもっと学び、私には日本語を使うように頼みました。

プログラムに参加している間、私は文化に浸ることができたと感じ、沖縄の状況をより徹底的に分析することになりました。歴史、有名な場所、自然、エイサー、そして平和。沖縄がどのような状況にあるか、そして、ここの人々のやり方で振る舞う理由も、もう少しよく理解できると思います。これらすべての事を沖縄で生まれた人たちや沖縄と関係を持つ人たちと共有できたことは、私が最も育まれたものの一つだと思います。彼らのほとんどは、ダンス、三線の演奏、エイサーなど 色々な国で同様の活動を行っていますが、どういうわけか異なっており、それが生まれた土地でプレゼンテーションをする機会を持つことは貴重な経験です。

ここに住んで慣れている人々との共存は、私たち外国人は、「ノーマル」という視点と内側からそれを見る機会について今まであまりなかったと思います。

間違いなく、私が一番好きだった活動は、ひめゆり、平和博物館、沖縄県立博物館への訪問でした。これらの活動はメキシコではまだタブーと見なされているため、誰もそれについて語りません。

私のことを知らなくても いつもとても友好的で親切な態度でふるまってくれたスタッフの皆さんに感謝しています。

私はこのプログラムに参加する機会を得たことを非常に幸運だと感じています。

このプログラムのおかげで私のルーツに近づいていると感じました。世界中の人々と共有したいと思っています。



ホーキンス 海 (14)

Kai Hawkins

オーストラリア

パース沖縄県人会

このプログラムの間の一週間、たくさんの新しいことを学び、いろいろな素晴らしい人達に出会い少し成長した気がします。緊張しながら、みんなに出会った初日から、夜中までパーティーして騒いだ最後の日まで、とても短かったけど楽しい一週間でした。

最初の日はとてもゆっくりで少し緊張していましたが、日が過ぎていくごとに新しい人に出会い、最終日には、新しい友達ができただけでとても自信がついていました。

2日目には、参加者の名前をほとんど覚えていたので、もっとみんなのことを知りたくて皆に話にもっと話かけることにしました。それと同時に沖縄の文化についても少しずつ学んでいき、もっと興味を持つようになりました。

3日目は沖縄で有名な水族館に行ったりと、とても楽しい日になりました。イベントやアクティビティを通してみんながもっと仲良くなりつながっていくような感じがしました。長時間のバス移動では、3時間ほど隣同士で座ることによって、もっと仲良くなるきっかけになったと思います。その時はけいたと一緒に座り、ゆっくりとルービックキューブの解き方を教えてくれました。一面だけそろえる方法は知っていたのですが、全面そろえるのは時間がかかりそうです。

4日目は、新しい場所へ移りました。その時もけいたと一緒にだったので時間があるときにはルービックキューブを教えてくれました。この日は川トレッキングの日で、一番の思い出です。濡れたり、石から石へ渡ったりして、ほかのメンバーを助けたり話したりして、皆ともっと仲良くなりました。

5日目は、戦争と平和について学びました。僕のお父さんは、戦争のことにはとても詳しく、沖縄に来るたびに、お父さんが戦争について話したり、隠れたトンネル(ガマのこと?)や戦地について話してくれていたもので、沖縄戦についてはたくさん知っていたのですが、それでも、とても興味深いなと思いました。

6日目は沖縄の文化についてのワークショップをたくさん行いました。人々についてもたくさん学びました。そして、同じ話題について興味を持っている人々と話すのはとてもおもしろいなと気づきました。

最後の日は長く暑かったのですが、最後のエイサーまでなんとか乗り切りました。最後にこの一週間を一緒に過ごしたみんなと話しているときにはとても悲しく、戸惑い、何を考えたらいいかわからなくなりました。

最後に、この一週間は今までの中で一番最高の時間だったかもしれません。そして自分に、ここで出会ったみんなのこと、共に経験したことを一生忘れないと約束しました。あと数日でここを離れないといけないうちはとても悲しいですが、世界が終わるともまたいつかみんなと会えることを信じています。



エミリー トーセイ 宮里 (17)

Emilie Germaine Jeannine Thosei Miyasato

フランス (ニューカレドニア)

ニューカレドニア沖縄日系人会

このプログラムの中で、さまざまな人たちと出会いました。違う町、国(ブラジル、ペルー、ポリビア、アルゼンチン等)から来た人たちの中で、フランス語圏からは私一人でした。なので、最初の日はとても大変なものでしたが、スタッフの皆さんのおかげで残りの日々は楽になりました。

エイサー練習や紅型体験を通して沖縄の歴史についてたくさん学び、また、沖縄戦の間の出来事についてもたくさん学びました。そして、日本人はよく食べるなぁとも気づきました。

この数日間を通して、沖縄が何かを学びました。沖縄は小さな島だけど、大きな市もたくさんあり、迷いやすいです。とてもきれいな海と自然のある島で、このように温かく迎えてくれる人々がいることもとても感動しました。また、この文化がなくならないのも驚きでした。この機会を与えてくれてありがとうございました。

時々、理解できないこともあったけど、とてもいい時間を過ごすことができました。たくさんの学びと、たくさんの素晴らしい人々と過ごした、忘れられない思い出になりました。



山城 太一 (20)

Taichi Yamashiro

ボリビア多民族国

ボリビア沖縄県人会

UJS FAMILY、ウチナーネットワークを広げたいという気持ちで今回沖縄へ来て、海外青年リーダーとして参加しようと思いました。この気持ちは、UJSに参加した人、誰でもあると思います。そして毎年、沖縄で頑張っているみんなを見てると、僕には何が出来るかと思ってばかりでした。

今年の1月に、ボリビアでニーセーターツアーが行われ、ツアーのコーディネーターとして活動しました。短い1週間のツアーでしたが、スタッフ活動をして、たくさんのお話を学ぶことができました。参加者としては見えないもの、感じないものなどたくさんのお話を聞けました。

その気持ちを心に刻み、沖縄へ来て、ちょっとでもみんなにウチナーであることに誇りを持つことを伝えるのが僕の今の役目だとわかりました。

この1週間、参加者みんなにちょっとでも頼りになれたのであれば、青年リーダーとしてとても嬉しいです。

みんなの成長を近くから見て、一緒に楽しんで、笑って泣くことを通して、みんなの心が一つになったのに気づきました。

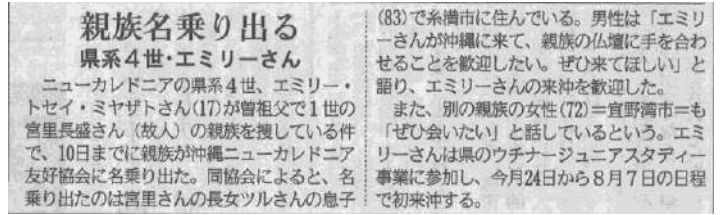
UJSのOBとしてそれが1番の気持ちだと思います。海外のみんなは、家族のルーツのことを詳しく知るため、県内参加者は、交流を求めて参加したと思います。できたのか分かりませんがみんな、一人一人と深い絆が繋がられたのは絶対です。

これからも、この絆を大切に、各国へ帰っても、ウチナーネットワークを広げられるため、みんな頑張らしましょう。

2019年7月10日 26面 掲載
エミリー：「親族捜し今月来沖へ」



2019年7月11日 26面 掲載
エミリー：「親族名乗り出る」



2019年7月25日 27面 掲載
エミリー：「エミリーさん初来沖」



2019年7月26日 29面 掲載
エミリー：「ルーツに触れ、涙」



2019年8月9日 28面 掲載
正美：「大叔母と感動の対面」



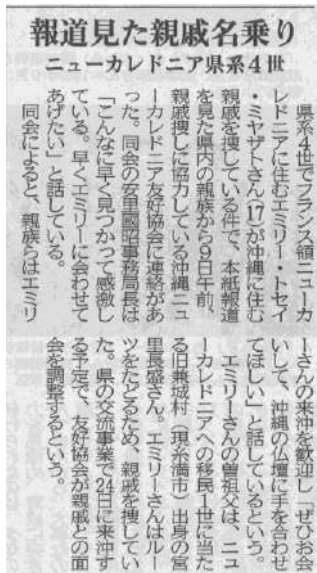
2019年7月8日 23面 掲載
メーガン：「メーガンさん訪沖心待ちに」



2019年7月9日 26面 掲載
エミリー：「親族見つけ話したい」



2019年7月10日 26面 掲載
エミリー：「報道見た親戚名乗り」



2019年7月15日 26面 掲載
エミリー：「県系17歳と対面心待ち」



2019年7月26日 28面 掲載
エミリー：「ミヤザトさん親戚と交流」



2019年12月23日 15面 掲載
れいみ：「沖縄で文化交流レイミさん報告」



ロゴマーク

●制作意図

既存のロゴマークをベースにデザインをさらにブラッシュアップさせ、見やすく、より鮮やかにロゴをマイナーチェンジした。

「Uchina Junior Study」を通じて海外移住者子弟の青少年と県内の中高生が沖縄への理解を深める。協調性、躍動感、ネットワークと魂(マブイ)、楽しさをイメージし、ロゴタイプを効果的+印象良く、楽しくレイアウトにした。また、世界のウチナーネットワークの継承を大きなテーマの一つととらえ、未来へ紡いでいく尊敬と信頼を築くイメージでグラフィカルに表現した。

●カラーリング構成

ブルーで友好のチムグクルを
グリーンで協調性を
レッドでウチナーンチュの情熱を
イエローであくなき探究心を
スカイブルーで沖縄の美しい自然を
それぞれ表現した。



●ロゴマーク(ボックスタイプ)

毎年、マイナーチェンジをしているロゴ。
今年度は、「2019」の再度にハイビスカス
を入れて、沖縄っぽさを強く表現した。
参加者・ボランティアから「デザインがかわいい」
と高く評価を受けた。



ロゴマーク(横タイプ)

ウェルカムボード、ネームフォルダに使用。



ポロシャツデザイン

ウチナージュニアスタディーオリジナルTシャツを参加者・県職員・運営スタッフ・ボランティア・青年リーダーの全員に配布し、県庁表敬・さよならパーティーの際に着用。全体の一体感を醸成し、規律ある団体行動を促した。

また、8月6日のアフタープログラムで寄せ書きをみんなで書き合うことにより思い出の品として持ち帰った。

配布するTシャツは、参加者用（白）と県職員・運営スタッフ・ボランティア・青年リーダー用（黒）の2種類作成。



●横断幕

サイズ250cm×45cm

事業名の『2019ウチナージュニアスタディー』

表敬訪問や首里城・美ら海水族館などの見学施設での全体写真撮影に使用。

2019 ウチナージュニアスタディー
Uchinā Junior Study
10.30

●ウェルカムボード

空港で海外参加者のお迎えの際に使用。

- 沖縄方言
- 日本語
- 英語
- スペイン語
- ポルトガル語
- フランス語

沖縄方言と5カ国で「ようこそ!」という意味。



●ネームフォルダ

名前（ローマ字含む）・出身国・年齢・血液型・性別・緊急連絡先を記載

■白：日本語圏

（県内参加者）

■赤：英語圏

（アメリカ合衆国・カナダ・オーストラリア・ニューカレドニア）

■青：スペイン語圏

（メキシコ合衆国・ポリビア多民族国・ペルー共和国・アルゼンチン共和国）

■緑：ポルトガル語圏

（ブラジル連邦共和国）

■黒：スタッフ・ボランティア

Uchina Junior Study 2019	
名前	
Name	
出身国 Country	日本 JAPAN
年齢 Age	血液型 Bloodtype
17	O
性別 Sex	性別 Sex
	女 F
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479	
沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課	

Uchina Junior Study 2019	
名前	
Name	
出身国 Country	アメリカ U.S.A
年齢 Age	血液型 Bloodtype
14	O
性別 Sex	性別 Sex
	女 F
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479	
沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課	

Uchina Junior Study 2019	
名前	
Name	
出身国 Country	アルゼンチン ARGENTINE
年齢 Age	血液型 Bloodtype
15	O
性別 Sex	性別 Sex
	女 F
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479	
沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課	

Uchina Junior Study 2019	
名前	
Name	
出身国 Country	ブラジル BRAZIL
年齢 Age	血液型 Bloodtype
16	A+
性別 Sex	性別 Sex
	女 F
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479	
沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課	

Uchina Junior Study 2019	
STAFF	
名前	
NAME	
ポジション	ディレクター
Position	Director
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479	
沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課	

●フェイスシール

最終日の修了式・さよならパーティー・パレットくもじ前でのエイサー演舞の際、県内参加者・県内青年リーダーは右頬には県旗のフェイスシール、左頬には日の丸のフェイスシールを貼り、海外参加者・海外青年リーダーは右頬には県旗のフェイスシール、左頬には自国のフェイスシールを貼り、「私たちは皆ウチナンチュ」と表現をした。



●facebookの活用

毎年、作成している本事業専用のグループページを今回作成することができなかった。近年、若年層からfacebook離れが増加している。今年度の県内参加者でもアカウントを持っている方が2名ほどしかおらず、事前学習で作成を呼び掛けたのだが、アカウントを作成する参加者は出なかった。

グループページ作成しても、アカウントを作らない参加者が多いため、効果がないと感じた。現在、参加者たちはLINEやインスタグラムやスナップチャットといったSNSを通し、交流を深めている。

改善策：LINEを中心に活用し、参加者の活動情報や本事業関連の情報・さまざまな情報を発信し、共有していく。

(1) これまでの海外参加者・引率者・青年リーダー内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○国別内訳 ()内は、平成23年度までは引率者の人数、平成24年度からは青年リーダーの人数

年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	H26	H27	H28★	H29	H30	R1	計
ボリビア	4 (1)	2	2 (1)	2	2	4 (1)	2 (1)	1	1	1 (1)	3	1	2	3	2	3	2	1	2 (1)	40 (6)
ブラジル	8 (2)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	6 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	3	3	2	3	3	2	2	2	60 (12)
うちカンボグランド	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1	1	2	1	1	1	1		1	1 (1)	1	1	1	1	1	1	20 (3)
アルゼンチン	4 (1)	2 (1)	2	2 (1)	2 (1)	3	2	2 (1)	2	2 (1)	3 (1)	1	3	2	2	2	2	1	2	41 (6)
ペルー	4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	1	2 (1)	2	3	1	2	1 (1)	2	3	1	1	2 (1)	38 (8)
ベネズエラ	1 (1)																			1 (1)
メキシコ	2 (1)					1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14 (1)
キューバ		1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)										7 (7)
フランス	1 (1)																			1 (1)
イギリス	1 (1)				1 (1)	2					1							1		6 (2)
ドイツ	1 (1)						1			1 (1)		1		1		1 (1)				5 (3)
アメリカ	17 (4)	6 (2)	6 (4)	5 (1)	5 (1)	10 (2)	5 (1)	4 (1)	6 (1)	7 (1)	7 (1)	5 (1)	2	2	3 (1)	4	4	6	4	108 (21)
うちハワイ		2	2 (1)	1		1		1	1			1								9 (1)
うちグアム	1		1 (1)																	2 (1)
カナダ	4 (2)	1 (1)	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1		2	1 (1)	1	1	24 (4)
フィリピン	3 (1)	2 (1)	2 (1)	1	1	1	1										1			12 (3)
シンガポール		1 (1)																		1 (1)
マレーシア						1		1			1			1	1	1				6
韓国														1	1	1	1			4
ニューカレドニア(フランス領)								1	1	1	1		1						1	6
オーストラリア																		1	1	2
計	50 (17)	20 (9)	19 (9)	17 (5)	17 (5)	34 (6)	17 (4)	15 (4)	18 (4)	21 (5)	23 (3)	14 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	20 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	375 (77)

○世代別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	H26	H27	H28★	H29	H30	R1	計
1世				1	2	1		1			1		1			1				8
2世	26	5	6	6	3	14	5	2	5	8	8	5	2	5	3	5	4	4	5	121
3世	21	8	10	8	9	13	8	5	8	7	8	4	6	7	4	8	7	7	8	156
4世	3	7	3	2	3	5	4	7	5	5	6	5	6	3	8	6	4	3	2	87
5世						1					1							1		3
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	15	15	375

○海外参加者の男女別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	H26	H27	H28★	H29	H30	R1	計
男子	30	9	5	7	6	15	6	4	6	9	10	6	6	6	7	7	3	7	4	153
女子	20	11	14	10	11	19	11	11	12	12	13	8	9	9	8	13	12	8	11	222
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	15	15	375

(2) これまでの県内・県外参加者内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○学生別内訳 ()内は県外参加者

※青年リーダーは含まない

年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	H26	H27	H28★	H29	H30	R1	計
小学生	9																			9
中学生	24	13 (3)	7 (1)	5	4	11	4	4	5	6	7	2	3	5	4	4	2	3	4	117 (4)
高校生	17	11 (1)	18 (2)	15	15	22	13	11	13	15	17	12 (1)	12	11	12 (1)	18 (2)	14	13	12	271 (7)
計	50	24 (4)	25 (3)	20	19	33	17	15	18	21	24	14 (1)	15	16	16 (1)	22 (2)	16	16	16	397 (11)

○県内・県外参加者の男女別内訳

()内は県外参加者

※青年リーダーは含まない

年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	H26	H27	H28★	H29	H30	R1	計
男子	15	6	4 (1)	4	5	7	3	3	4	3	4	2	3	3	4	4	3	3	3	83 (1)
女子	35	18 (4)	21 (2)	16	14	26	14	12	14	18	20	12 (1)	12	13	12 (1)	18 (2)	13	13	13	314 (10)
計	50	24 (4)	25 (3)	20	19	33	17	15	18	21	24	14 (1)	15	16	16 (1)	22 (2)	16	16	16	397 (11)

(3) これまでの参加者合計 (海外、県内、県外)

○参加者合計

年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	H26	H27	H28★	H29	H30	R1	計
海外	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	15	15	375
県内・国内	50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	16	16	22	16	16	16	397
計	100	44	44	37	36	67	34	30	36	42	47	28	30	31	31	42	31	31	31	772